

令和7年度

全国学力・学習状況調査

本県の結果と分析

令和7年11月14日

青森県教育庁学校教育課

令和 7 年度全国学力・学習状況調査 本県の結果と分析

目 次

I 全体概要	
1 調査の概要	1
2 教科ごとの状況	2
3 質問調査結果	3
II 小学校	
1 正答率	7
2 領域別の正答率	10
3 児童質問調査	13
4 学校質問調査	16
5 指導改善のポイント	19
III 中学校	
1 正答率	22
2 領域別の正答率	25
3 生徒質問調査	28
4 学校質問調査	31
5 指導改善のポイント	34
IV 質問調査	
1 児童質問	37
2 学校質問	43
参考 こどものウェルビーイングの実現に関連が深いと考えられる項目	50

* 本報告書の活用にあたって *

本報告書は、本調査の結果を受けて、本県の学習指導上の課題を明らかにし、県内の各学校が今後とるべき対策の参考となる事柄を示すことを主なねらいとして作成したものです。

本報告書の活用にあたっては、各教科・科目の結果だけでなく、質問調査の結果についても、自校の結果と比較しながら、今後の指導の改善に役立てていただきたいです。

本調査の結果の概要や正答数の分布、全ての小問の正答率等については、国立教育政策研究所ホームページ内『令和7年度全国学力・学習状況調査【都道府県別・指定都市別データについて】』を参照してください。

県教育委員会ホームページに今年度の全国学力・学習状況調査の結果を踏まえた本県の課題や報告書を踏まえた「指導例集」が掲載されていますので、活用してください。

国立教育政策研究所のホームページに、文部科学省の調査結果や報告書を踏まえた「授業アイデア例一覧」が掲載されていますので、併せて活用ください。

なお、本報告書では、小学校又はこれに準ずる学校を「小学校」、中学校又はこれに準ずる学校を「中学校」とします。

I 全体概要

I 調査の概要

(1) 調査実施日

令和7年4月17日(木)……………小学校国語、小学校算数、小学校理科、
中学校国語、中学校数学

令和7年4月14日(月)～17日(木)…中学校理科(CBTを用いたオンライン方式)
中学校生徒質問調査(オンライン方式)

令和7年4月18日(金)～30日(水)…小学校児童質問調査(オンライン方式)

令和7年4月1日(火)～17日(木)…学校質問調査実施(オンライン方式)

(2) 調査対象

小学校第6学年の全児童

中学校第3学年の全生徒

(3) 調査内容(教科、質問調査)

① 教科 小学校 国語(45分) 算数(45分) 理科(45分)

中学校 国語(50分) 数学(50分) 理科(50分)

※中学校理科のみCBT調査

② 質問(今年度よりオンライン方式) 児童生徒質問調査 学校質問調査

(4) 参加公立学校数

小学校参加校数 本県 242校(全国 18,289校)

中学校参加校数 本県 144校(全国 9,291校)

(5) 参加公立児童生徒数

小学校児童数 8,094名【国語】(全国 936,137名)

8,090名【算数】(全国 936,399名)

8,092名【理科】(全国 936,576名)

中学校生徒数 7,884名【国語】(全国 870,560名)

7,889名【数学】(全国 871,097名)

7,790名【理科】(全国 864,634名)

2 教科ごとの状況

○平均正答数及び平均IRTスコア、平均正答率、標準化得点

【平均正答数・平均IRTスコア】

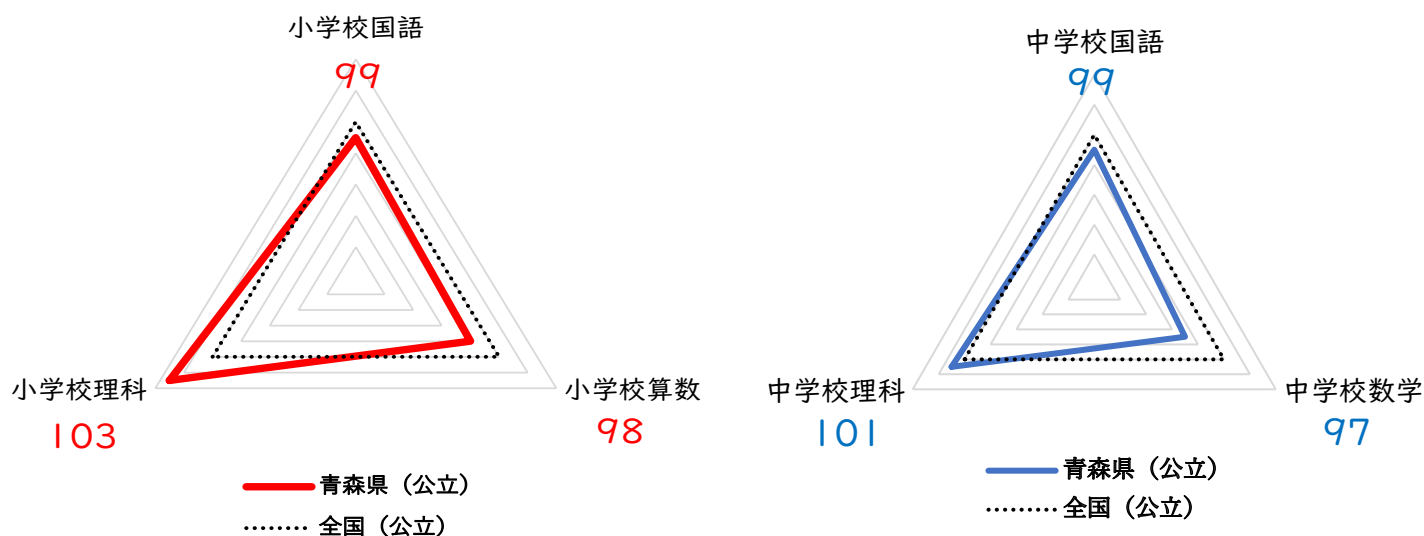
		青森県(公立)	全国(公立)			青森県(公立)	全国(公立)
小学校	国語	9.3	9.4	中学校	国語	7.5	7.6
	算数	9.1	9.3		数学	7.0	7.2
	理科	10.0	9.7		理科	507	503

【平均正答率】 ※都道府県は、整数値での結果公表であった。

		青森県(公立)	全国(公立)			青森県(公立)	全国(公立)
小学校	国語	67	66.8	中学校	国語	54	54.3
	算数	57	58.0		数学	46	48.3
	理科	59	57.1		理科		

【標準化得点】

※ 標準化得点とは、全国(公立)の平均正答数を100とした時の本県の正答数である。



- ・本県公立小・中学校の国語及び算数・数学の平均正答数は、全国を若干下回った。理科の平均正答数及び平均IRTスコアは、全国を若干上回った。また、全国との差については、平均正答数で本県は±0.1～0.3の差が見られる。
- ・標準化得点において、全国の平均正答数と比べると、本県は、±1～3の差が見られる。

○県教育委員会としては、今回の調査結果を全国と同程度と捉えている。

3 質問調査結果

主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況

(1) 児童生徒質問調査

① 小学校

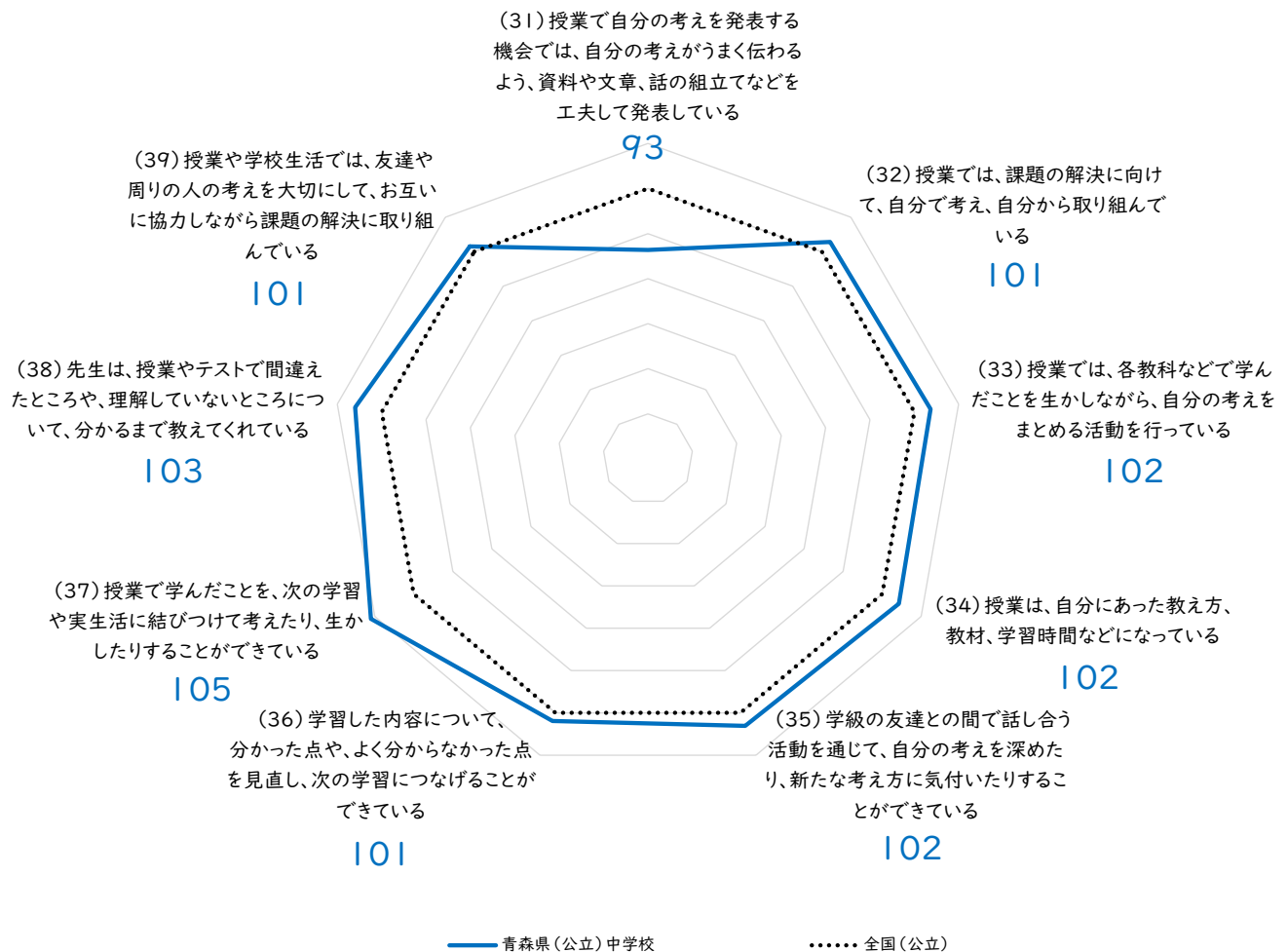


※数値は全国（公立）を100とした時の青森県（公立）小学校及び中学校である。本県の肯定的回答数÷全国の肯定的回答数×100で計算している。（以下同じ）

- ・小学校では、(36)「学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができる」、(37)「授業で学んだことを次の学習や実生活に結びつけて考えたり、生かしたりすることができる」、(38)「先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれている」と実感している割合が全国を上回っている。
- ・小学校では、(31)「自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表している」と実感している割合が他の項目に比べて下回っている。

○本県小学校は、ほとんどの項目が全国と同程度であることから、主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善が進められていると考えられる。

②中学校

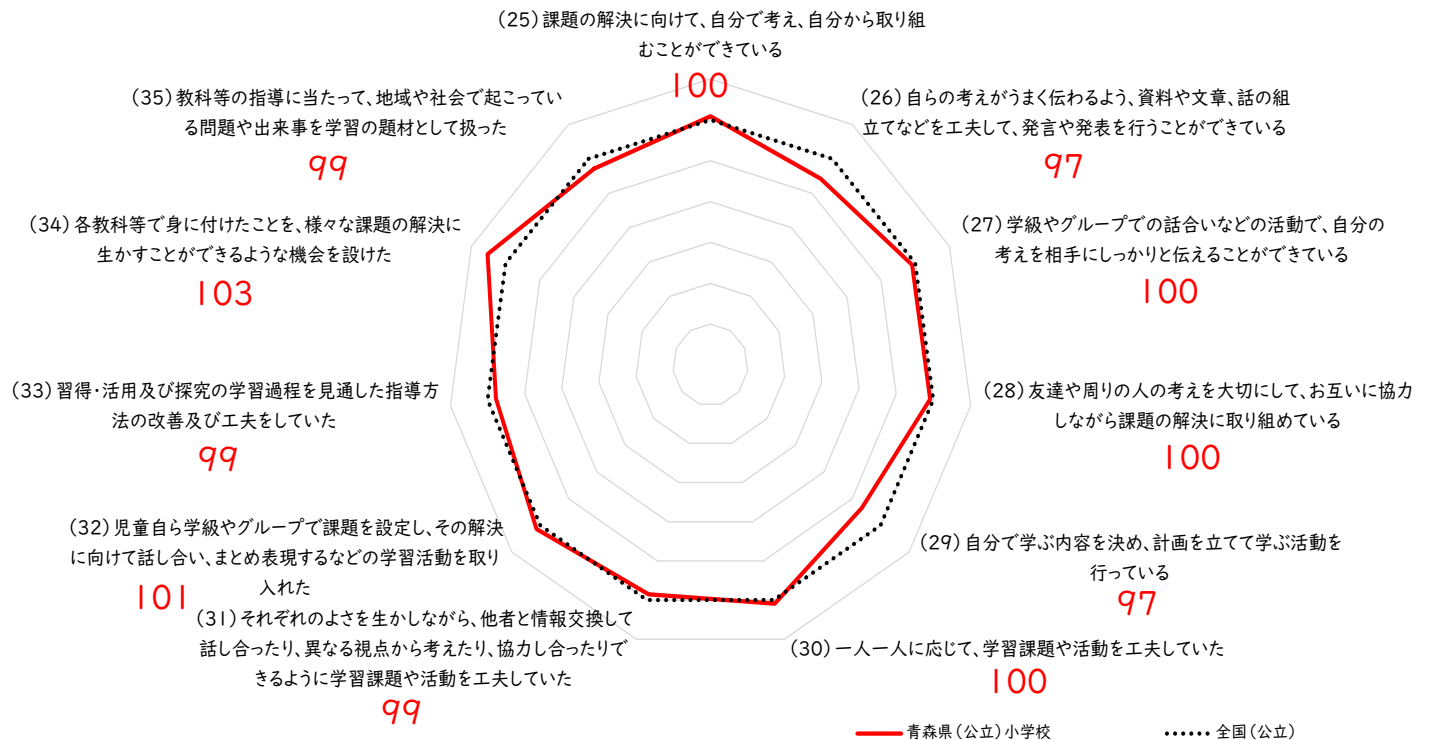


- ・中学校では、(37)「授業で学んだことを次の学習や実生活に結びつけて考えたり、生かしたりすることができている」と実感している割合が全国を大きく上回っている。
- ・中学校では、(31)「自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表している」と実感している割合が全国を下回っている。

○本県中学校は、ほとんどの項目が全国と同程度であることから、主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善が進められていると考えられる。

(2) 学校質問調査

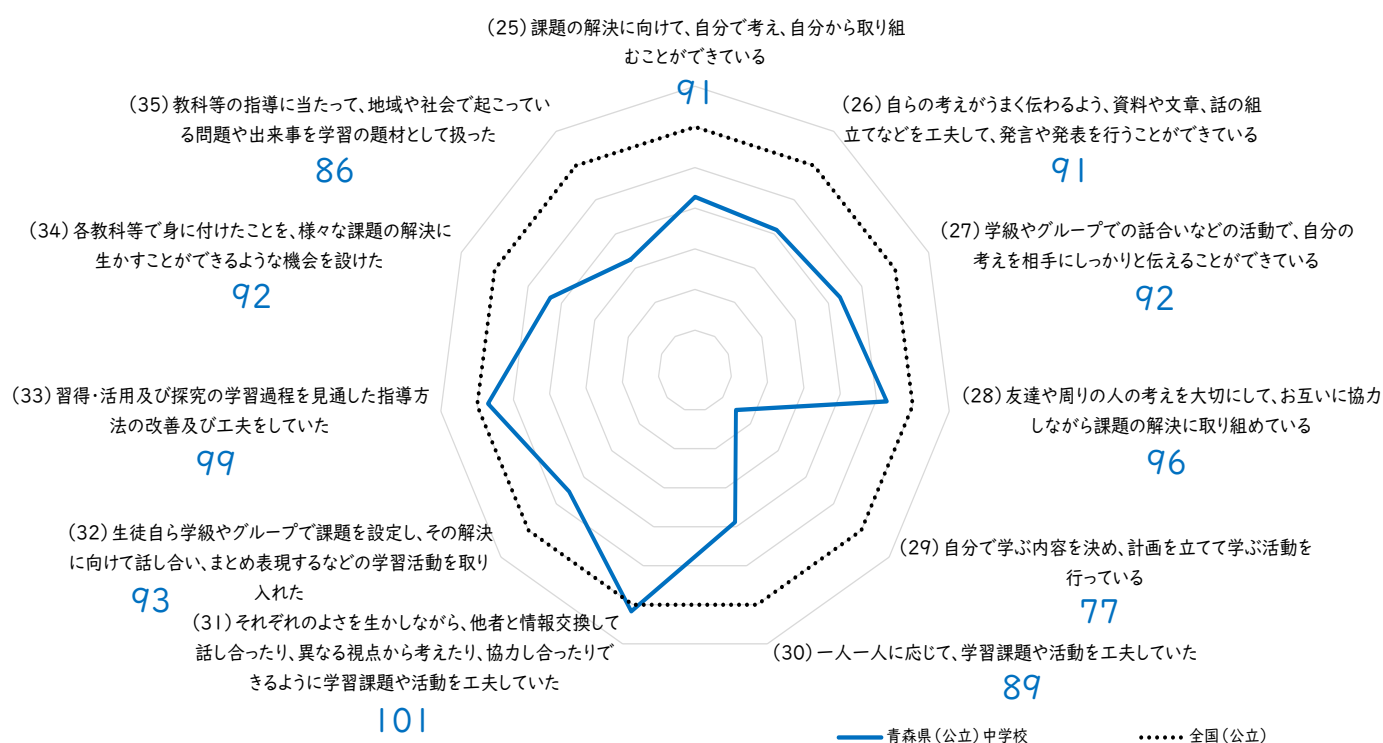
①小学校



- ・小学校では、(32)「児童自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ表現するなどの学習活動を取り入れた」、(34)「各教科等で身に付けたことを、様々な課題の解決に生かすことができるような機会を設けた」が全国を上回っている。
- ・小学校では、(26)「自らの考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して、発言や発表を行うことができる」、(29)「自ら学ぶ内容を決め、計画を立てて学ぶ活動を行っている」が全国を下回っている。

○児童質問調査と学校質問調査を比べると、各小学校と児童は、共にほとんどの項目において、肯定的に捉えていることから、学校の児童に対する日頃の指導が、十分に伝わっていることの表れであると考えられる。これは、各小学校の先生方の成果であり、引き続き、取組を続けていただきたい。

②中学校



- ・中学校では、(31)「それぞれのよさを生かしながら、他者と情報交換して話し合ったり、異なる視点から考えたり、協力し合ったりできるように学習課題や活動を工夫していた」が他の項目に比べて上回っている。
- ・中学校では、(29)「自ら学ぶ内容を決め、計画を立てて学ぶ活動を行っている」が全国を下回っている。

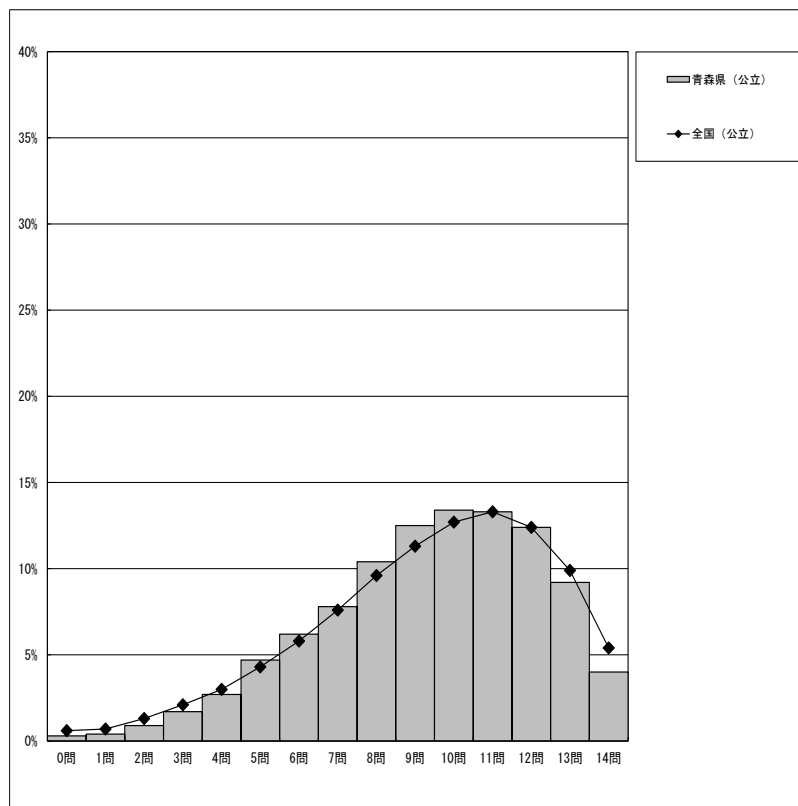
○学校質問調査において、全国を下回る項目はあるものの、各中学校は課題と捉えているが、生徒は肯定的に捉えている項目が多く見られ、生徒の肯定的な評価は、各学校の取組の成果と考えられることから、生徒の肯定的な評価を踏まえ、主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に、引き続き、取組を続けていただきたい。

Ⅱ 小学校

Ⅰ 正答率

①国語

・正答数分布グラフ(横軸:正答数 縦軸:割合)・正答数集計値



正答数	青森県(%)	全国(%)
14問	4.0	5.4
13問	9.2	9.9
12問	12.4	12.4
11問	13.3	13.3
10問	13.4	12.7
9問	12.5	11.3
8問	10.4	9.6
7問	7.8	7.6
6問	6.2	5.8
5問	4.7	4.3
4問	2.7	3.0
3問	1.7	2.1
2問	0.9	1.3
1問	0.4	0.7
0問	0.3	0.6

・四分位

	青森県 (公立)	全国 (公立)
第3四分位	12.0問	12.0問
第2四分位	10.0問	10.0問
第1四分位	8.0問	7.0問

□正答数分布グラフ・正答数集計値

- ・正答数13問及び14問の割合は、全国を下回っている。
- ・正答率5問～10問の割合は、全国を上回っている。
- ・正答数4問以下の割合は、いずれも全国を下回っている。

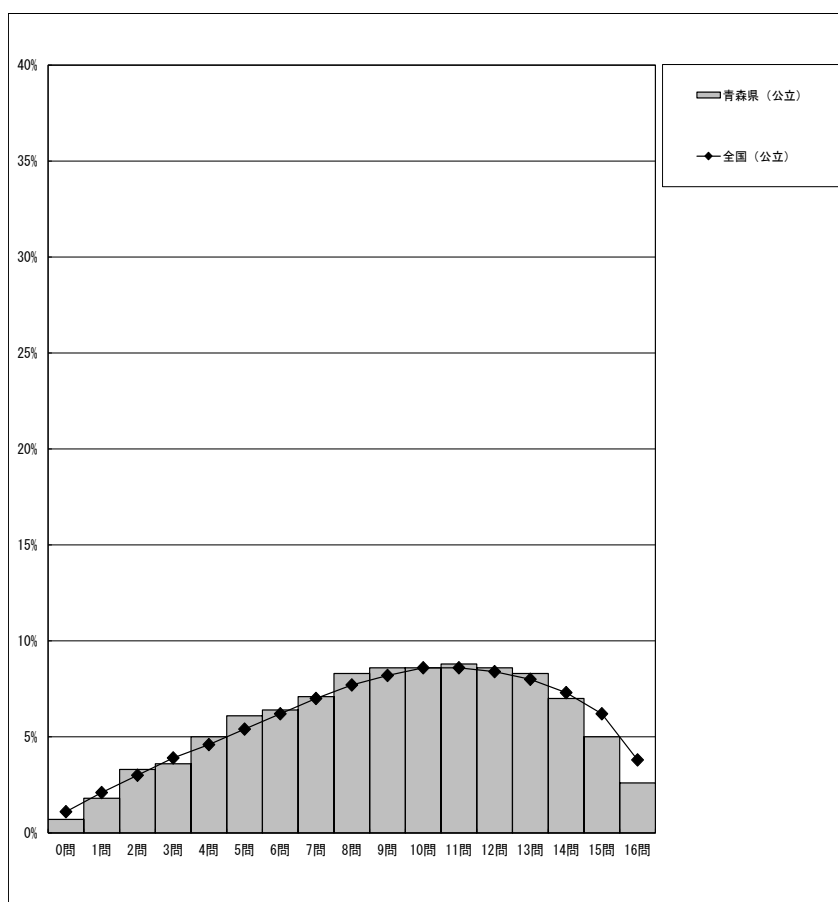
□四分位表

- ・第1四分位数は全国7.0問に対し、青森県は8.0問と、全国より1.0問高い状況にある。
- ・第2四分位、第3四分位とも全国と同じである。

○本県は、全国に比べて正答数0問～4問の割合が少なく、正答数5問～10問の割合が高いことから、中位層への学習指導が充実していることがうかがえる。今後は、上位層の児童の学習指導をさらに充実していく必要がある。

②算数

・正答数分布グラフ(横軸:正答数 縦軸:割合)・正答数集計値



正答数	青森県%	全国%
16問	2.6	3.8
15問	5.0	6.2
14問	7.0	7.3
13問	8.3	8.0
12問	8.6	8.4
11問	8.8	8.6
10問	8.6	8.6
9問	8.6	8.2
8問	8.3	7.7
7問	7.1	7.0
6問	6.4	6.2
5問	6.1	5.4
4問	5.0	4.6
3問	3.6	3.9
2問	3.3	3.0
1問	1.8	2.1
0問	0.7	1.1

・四分位

	青森県 (公立)	全国 (公立)
第3四分位	12.0問	13.0問
第2四分位	9.0問	10.0問
第1四分位	6.0問	6.0問

□正答数分布グラフ・正答数集計値

- ・正答数4問～9問の割合は、全国を上回っている。
- ・正答数10問の割合は、全国と同じ。
- ・正答数11問～13問の割合は、全国を上回っている。
- ・正答数14問～16問の割合が全国を下回っている。

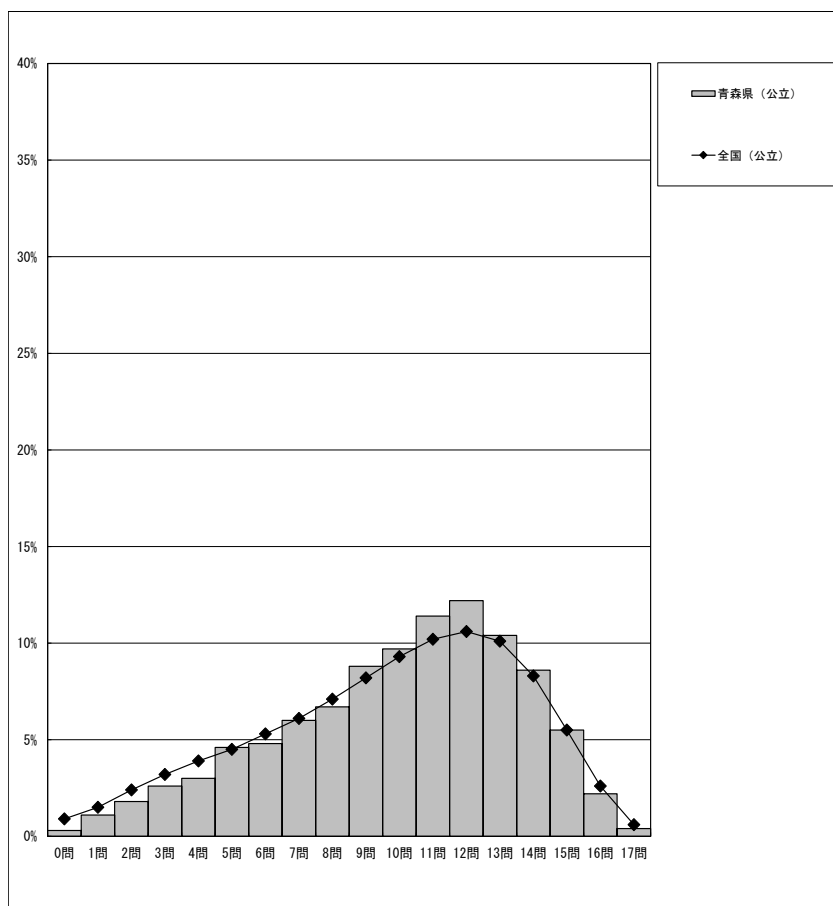
□四分位表

- ・中央値を示す第2四分位は、全国10.0問に対し、青森県9.0問と1.0問低い状況である。
- ・第3四分位も全国13.0問に対し、青森県12.0問と1.0問低い状況である。

○正答数10問～13問の割合が多いことから、中間層への学習内容への理解を深める指導が行われていることがうかがえる。低位層、上位層への指導の充実のためには、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実をさらに進める必要がある。

③理科

・正答数分布グラフ(横軸:正答数 縦軸:割合)・正答数集計値



正答数	青森県%	全国%
17問	0.4	0.6
16問	2.2	2.6
15問	5.5	5.5
14問	8.6	8.3
13問	10.4	10.1
12問	12.2	10.6
11問	11.4	10.2
10問	9.7	9.3
9問	8.8	8.2
8問	6.7	7.1
7問	6.0	6.1
6問	4.8	5.3
5問	4.6	4.5
4問	3.0	3.9
3問	2.6	3.2
2問	1.8	2.4
1問	1.1	1.5
0問	0.3	0.9

・四分位

	青森県 (公立)	全国 (公立)
第3四分位	13.0問	13.0問
第2四分位	11.0問	10.0問
第1四分位	8.0問	7.0問

□正答率分布グラフ・正答数集計値

- ・正答数9問～14問の割合が、いずれも全国を上回っている。
- ・正答数8問以下の割合は、正答数5問を除いて、いずれも全国を下回っている。
- ・正答数11問及び12問の割合が、全国よりも1.0ポイント以上上回っている。

□四分位表

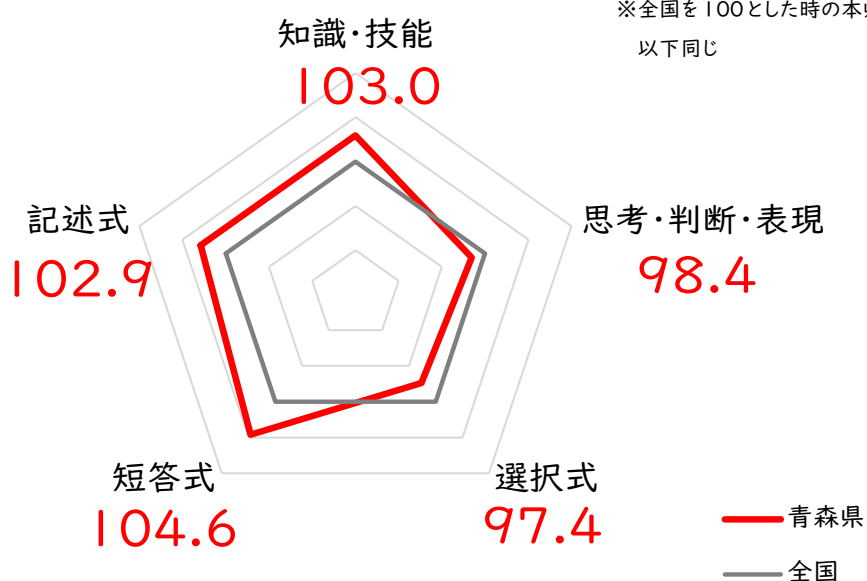
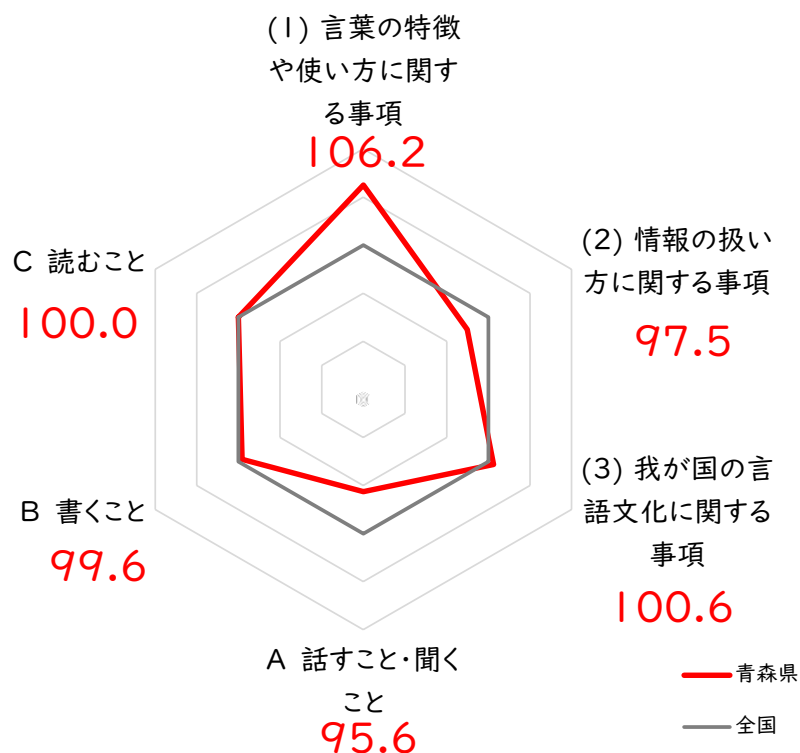
- ・第1四分位、第2四分位が、いずれも全国より1.0問高い状況である。
- ・第3四分位が全国と同じ状況である。

○本県は、中位層から上位層にかけての正答数が全国を上回っていることから、低位層から中位層にかけての学習指導の充実が成果として表れていると評価できる。今後も、上位層の児童の学習状況に留意しながら、低位層を中心とした児童への学習指導の充実を継続していくことが必要である。

2 領域別の正答率

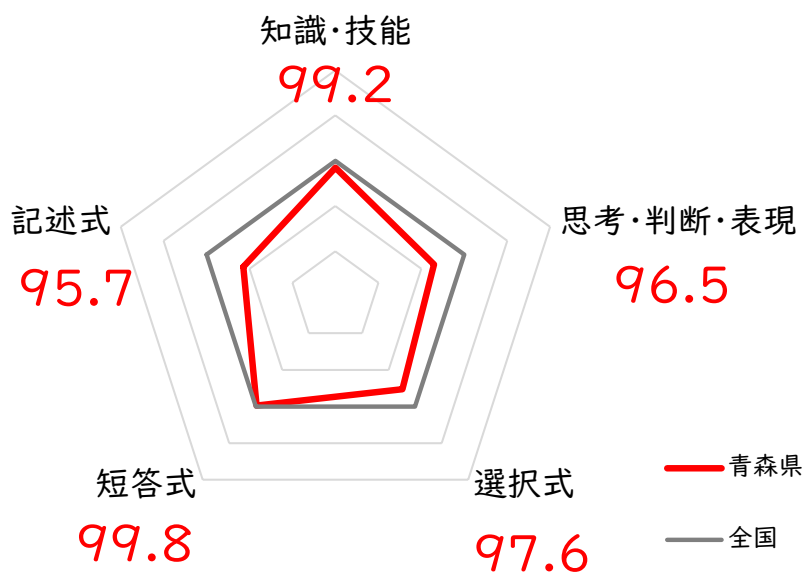
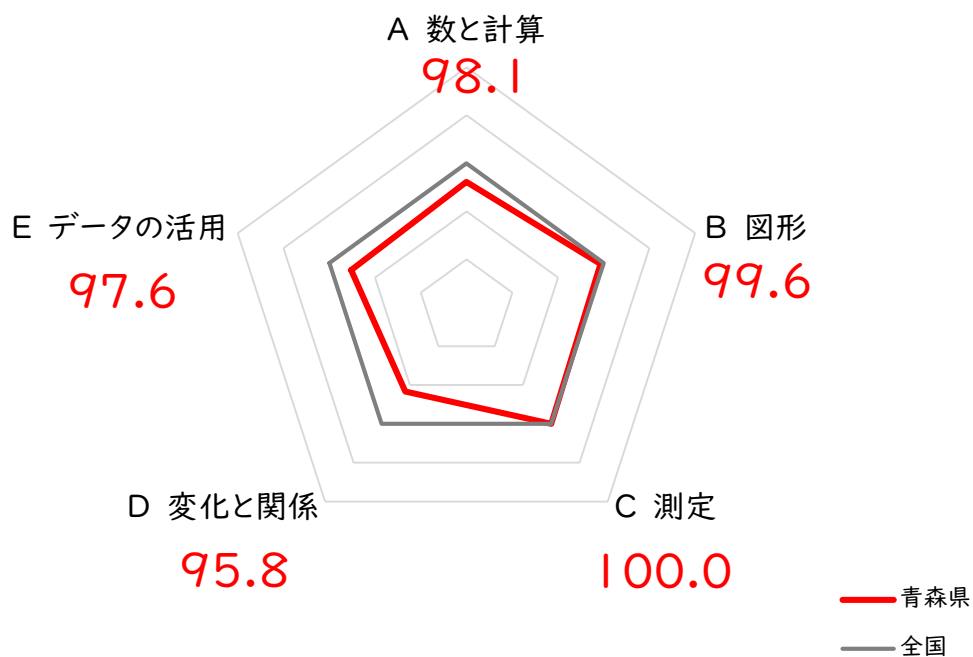
①学習指導要領の内容及び評価の観点、問題形式

(ア) 国語



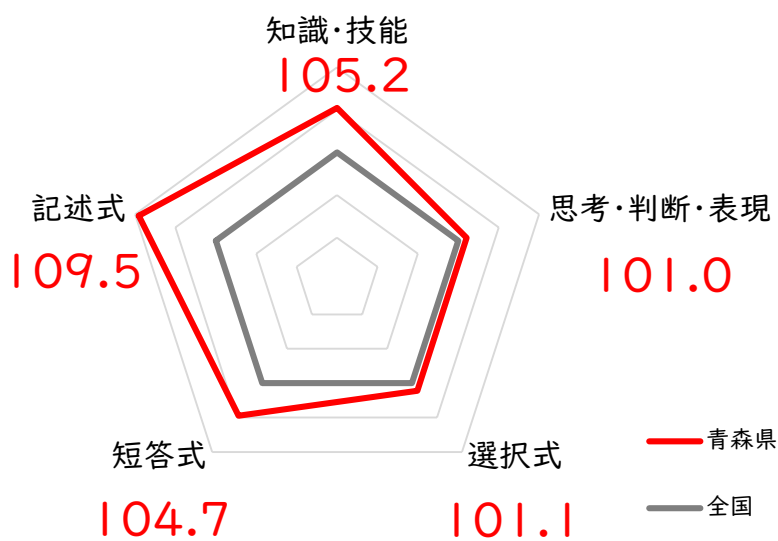
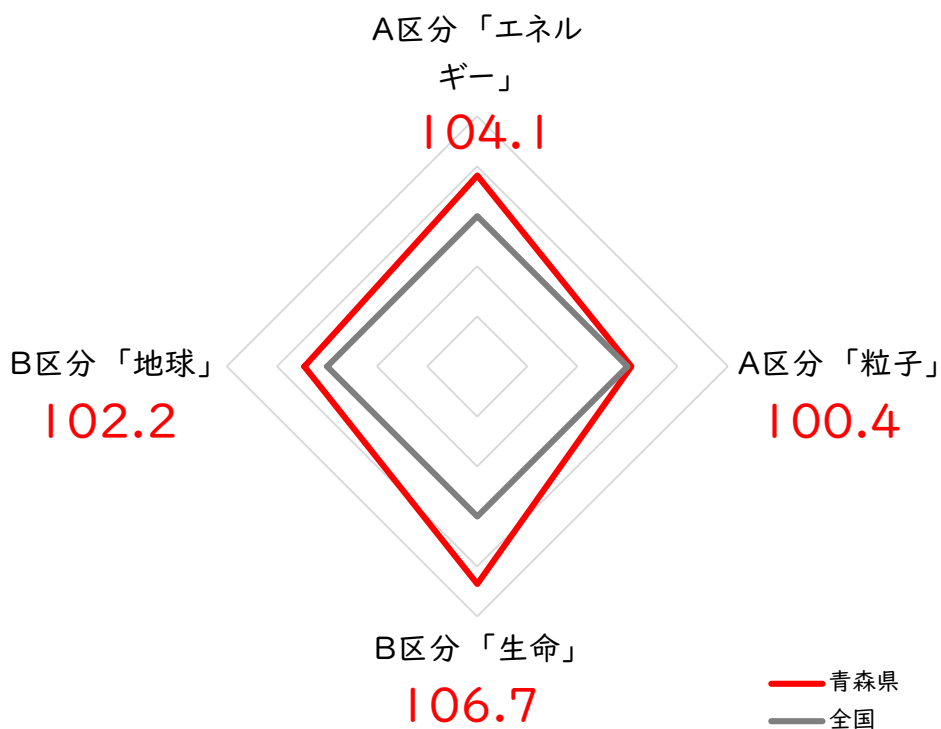
- ・内容別では、「A 話すこと・聞くこと」は全国を下回っている。「C 読むこと」は全国と同じである。
- ・(1)「言葉の特徴や使い方に関する事項」は、全国を大きく上回っている。一方で、(2)「情報の扱い方に関する事項」は全国を下回っている。
- ・評価の観点別では、「知識・技能」の観点で、全国を上回っている。一方で、「思考・判断・表現」の観点で、全国を下回っている。
- ・問題形式別では、「記述式」「短答式」は、全国を上回っている。一方で、「選択式」は、全国を下回っている。

(イ) 算数

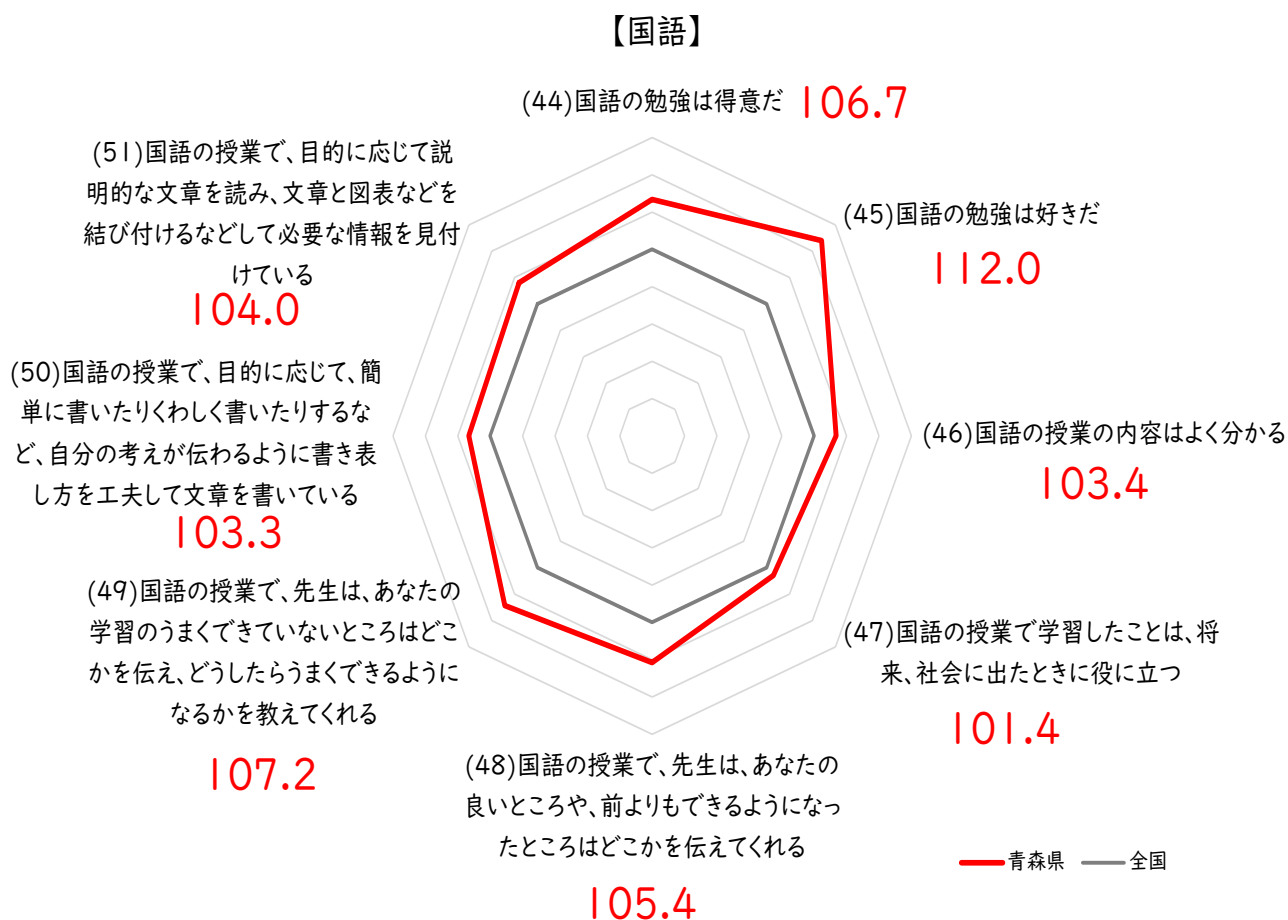


- ・領域別では、「C 測定」が全国と同じ、「A 数と計算」「B 図形」「D 変化と関係」「E データの活用」が全国を下回っている。
- ・評価の観点別では、「知識・技能」「思考・判断・表現」の2観点ともに全国を下回っている。
- ・問題形式別では、「記述式」「短答式」「選択式」とともに全国を下回っている。

(ウ) 理科



- ・領域別では、全領域において全国を上回っており、特に「生命」領域が全国を大きく上回っている。
- ・評価の観点別では、「知識・技能」「思考・判断・表現」の2観点ともに全国を上回っている。
- ・問題形式別では、いずれの形式においても全国を上回っており、特に「記述式」が全国を大きく上回っている。

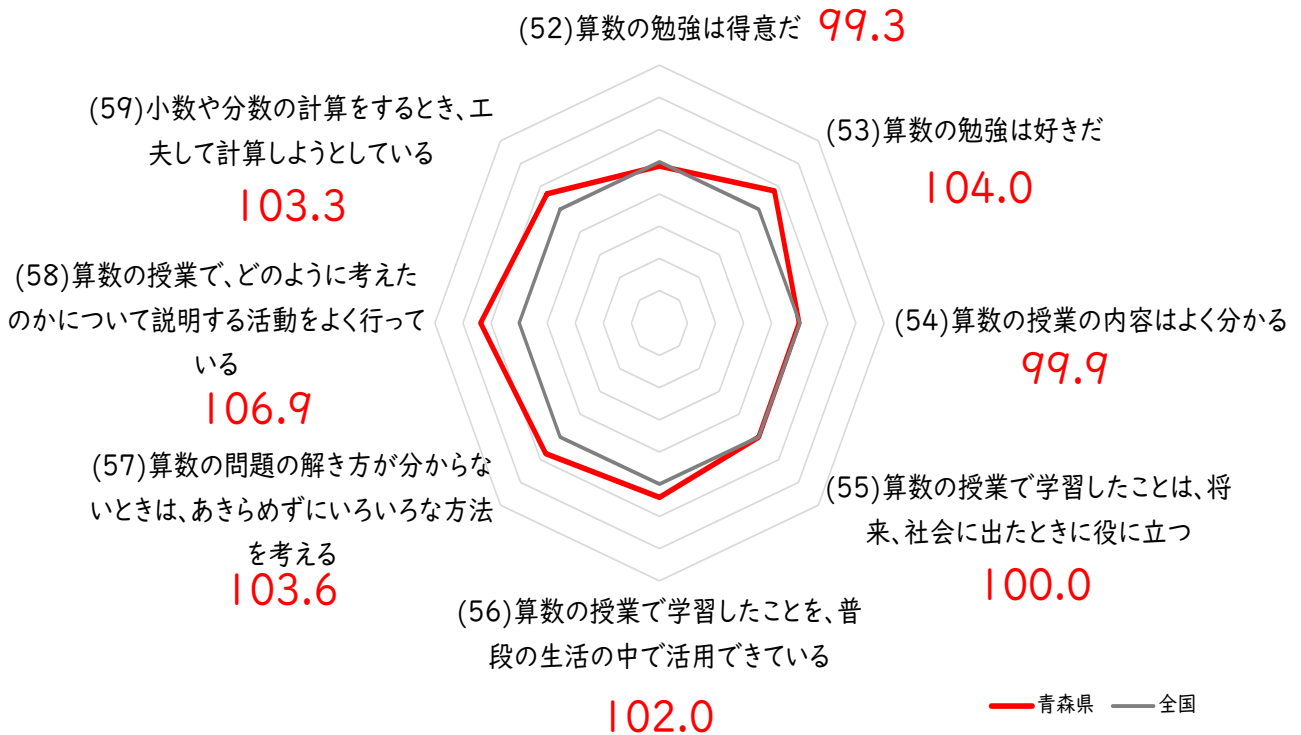


【国語】

- ・本県の児童は、全8項目の全てについて全国を上回っている。特に、(45)「国語の勉強は好きだ」と肯定的に受け止めている児童の割合が大きく上回っている。
- ・国語の授業における教師の関わりに関する質問(48)(49)も全国を上回っている。
- ・(50)「B 書くこと」、(51)「C 読むこと」(説明的な文章)に関する質問も全国を上回っている。

○教師が主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に取り組んでいる様子が見えてくる。

【算数】

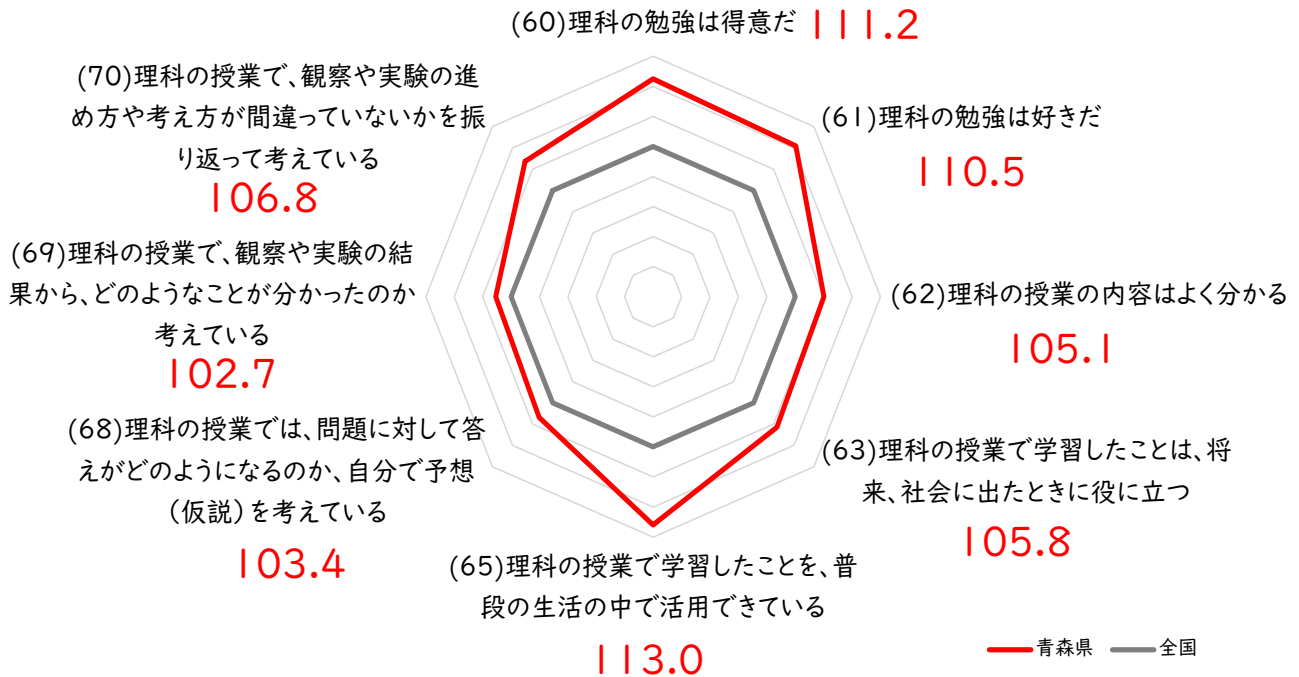


【算数】

- ・(53)「算数の勉強が好きだ」について肯定的に受け止めている児童の割合は全国を上回っているが、(52)「算数の勉強が得意だ」(54)「算数の授業の内容はよく分かる」について肯定的に受け止めている児童の割合は全国を下回っている。
- ・(58)「算数の授業で、どのように考えたのかについて説明する活動をよく行っている」について肯定的に受け止めている児童の割合は全国を上回っている。
- ・(57)「算数の問題の解き方が分からないときは、あきらめずにいろいろな方法を考える」について肯定的に受け止めている児童の割合は全国を上回っており、調査問題においても無解答率の割合が全国に比べ、平均で1.0%程度下回っている。

○「主体的な学び」「対話的な学び」の視点を大切にした授業づくりが行われていると考えられる。今後は、「単に知識を増やすだけでなく、情報を整理・精査し、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、問題を見つけて解決策を考えたり、創造的に思考したりする」ような「深い学び」の視点を大切にした授業づくりについても積極的に取り組んでいく必要がある。

【理科】

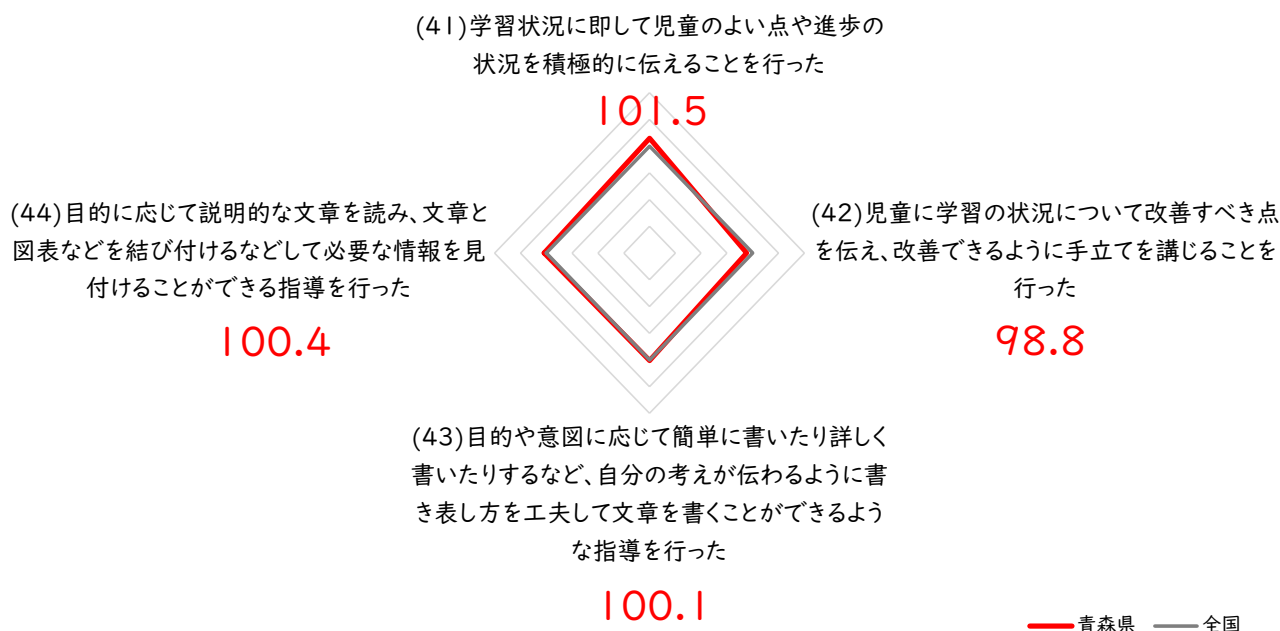


【理科】

・全8項目の全てについて全国を上回っている。特に、(60)「理科の勉強は得意だ」、(61)「理科の勉強は好きだ」、(65)「理科の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できている」について、肯定的に受け止めている児童の割合が全国を大きく上回っている。

○理科の授業が、児童の自然現象に対する興味・関心に基づき、日常生活と関連させながら、「深い学び」の視点を大切に授業が展開されている状況にあると考えられる。

【国語】

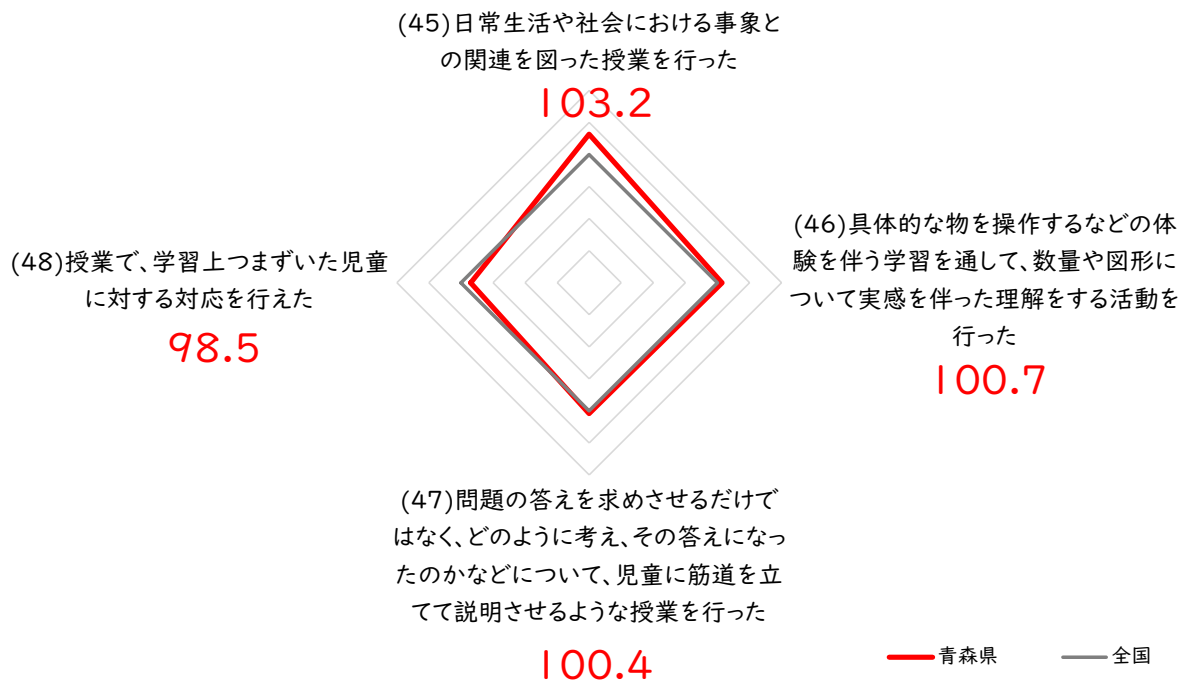


【国語】

- ・(41)「学習状況に即して児童のよい点や進歩の状況を積極的に伝えることを行った」ことについて、肯定的に受け止めている学校は、全国を上回っている。
- ・(42)「児童に学習の状況について改善すべき点を伝え、改善できるように手立てを講じることを行った」における学校質問調査は全国を下回っているが、児童質問調査では上回っている。

○概ね全国と同程度である。

【算数】

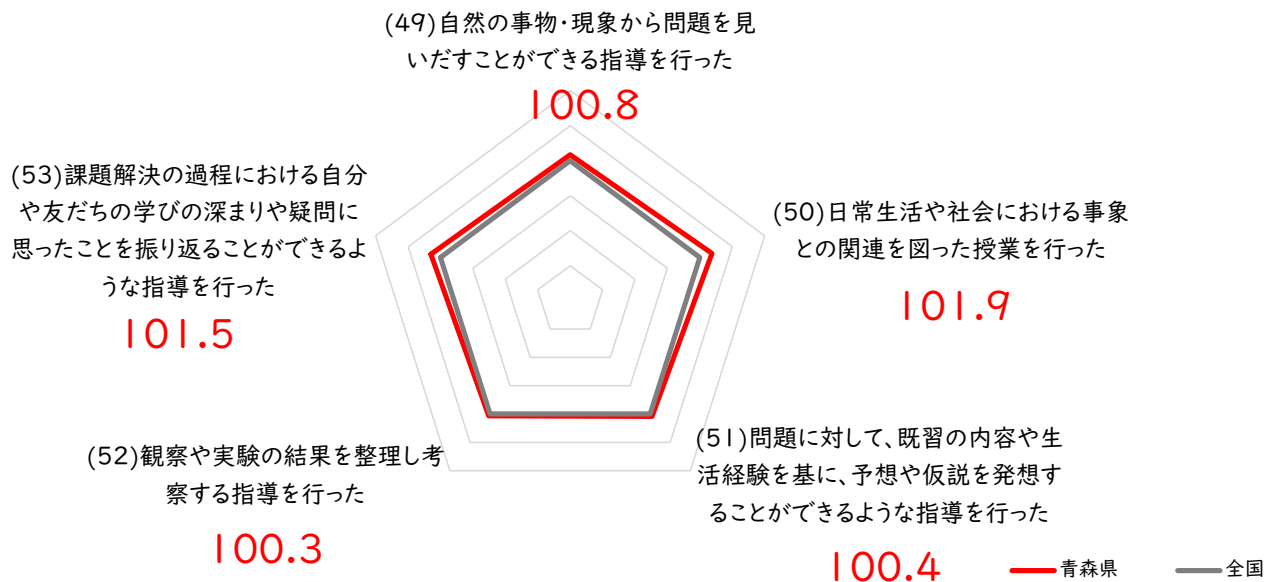


【算数】

- ・(45)「日常生活や社会における事象との関連を図った授業を行った」ことについて、肯定的に受け止めている学校は、全国を上回っている。
- ・(48)「授業で、学習上つまずいた児童に対する対応を行えた」について、肯定的に受け止めている学校の割合が全国を下回っている状況にある。

○概ね全国と同程度である。児童のつまずきを予測して適切なサポートを行うことは、授業者の教材・教具、授業内容・指導方法等の工夫につながることから、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善に今後も取り組む必要がある。

【理科】



【理科】

・全5項目の全てについて、肯定的に受け止めている学校の割合が全国を上回っている。

○(51)「問題に対して、既習の内容や生活経験を基に、予想や仮説を発想することができるような指導を行った」、(52)「観察や実験の結果を整理し考察する指導を行った」の割合と、その項目に対応する児童質問調査の結果が、他の項目よりやや低い状況であることから、これらの項目に重点を置いた指導の充実が望まれる。

5 指導改善のポイント

①国語

大問1ー 【思考力、判断力、表現力等】

A 話すこと・聞くこと

◆目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討することに課題がある。

◇伝え合う内容を検討する際、目的や意図に応じて聞くことを具体的に考え、関係する材料を整理する。

目的や意図に応じて、自分が知っていることや予想したこと、疑問に感じていることなどを内容ごとにまとめたり、それらを互いに結び付けて関係を明確にしたりできるよう指導することが重要である。また、知りたいことを聞くという目的に加え、相手の考えを予想したり、予想した答えと関連して聞きたいことを考えたりするなど、聞くときの場面や状況を意識することも大切である。

大問3三(1) 【思考力、判断力、表現力等】

C 読むこと

◆目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けることに課題がある。

◇目的に応じて、必要な情報を取捨選択したり、整理したり、再構成したりする。

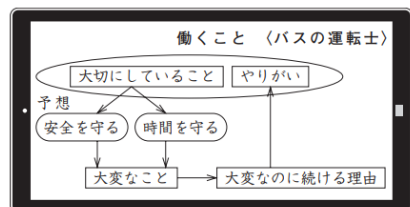
必要な情報は目的に応じて変わるため、読む目的を明確にすることが重要である。その上で、文章中に用いられている図表などが、文章のどの部分と結び付くのかを明らかにしたり、文章と図表などの関係を捉えて読んだりすることが必要である。その際、文章と資料(文章、図表等)を丸や四角で囲んだり、線などでつないだりして、どの部分と結び付くのかを明らかにしながら読むことや、他者との対話を取り入れるなどして、児童自身が読む目的に立ち返り、必要な情報を再確認して資料を読み直すことで、児童は内容についてより深く理解したり解釈したりすることができるようになると考えられる。

関連して

【知識及び技能】情報の扱いに関する事項

◆情報と情報との関連付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことに課題がある。

◇目的や意図に沿って、線や囲みなど図示することによって自分なりに情報を整理する。

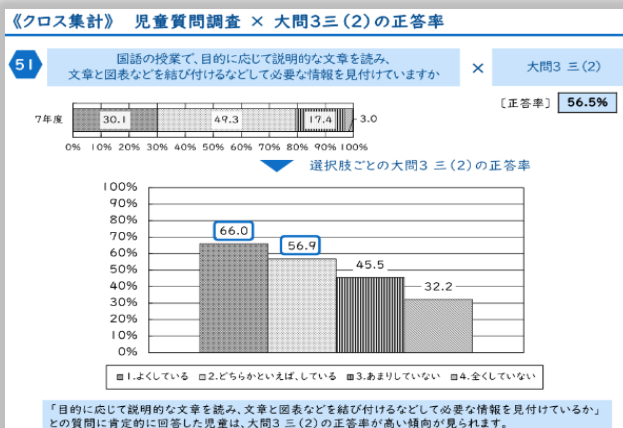


【話し合いの記録】

〔知識及び技能〕は、〔思考力、判断力、表現力等〕の指導事項と関連を図り、児童が体験的に身に付けていけるように学習の展開を工夫することが重要である。つまり、情報に関する事項は「A 話すこと・聞くこと」「B 書くこと」「C 読むこと」の指導と関連させ、年間を通じて複数回、意図的に指導することが大切である。例えば、目的や意図を意識し、自分なりに情報を整理する学習活動を設定するとともに、整理の仕方を友達と共有し、よりよい整理の仕方に気付く機会を設けるなどの工夫が考えられる。

児童質問調査との関係

児童が読む目的を意識することや自らの学びを自覚することが大切だと推察される。



②算数

分析のポイント(課題)

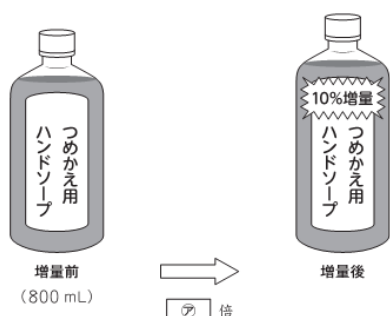
- ・「10%増量」の意味を解釈し、「増量後の量」が「増量前の量」の何倍になっているかを表すことに課題がある。(正答率 青森県36.2 全国40.9)

具体的な設問 [思考・判断・表現]

- ・大問4(4) 10%増量したつめかえ用のハンドソープの内容量が、増量前の何倍かを選ぶ。

(4) 家に帰ったあさひさんは、つめかえ用のハンドソープがのっている広告を見ました。

広告には、つめかえ用のハンドソープが「10%増量」と書かれています。増量前のつめかえ用のハンドソープの量は800 mLです。



増量後のハンドソープの量は、増量前のハンドソープの量の何倍ですか。上の□にあてはまる数を、下の 1 から 4 までの中から 1 つ選んで、その番号を書きましょう。

- 1 0.1
- 2 1.1
- 3 10
- 4 110

○解答の分析

正答 1.1倍(正答率36.2%)

誤答例 ①0.1倍(43.1%) ②10倍(15.2%)

- ・①のように解答した児童は、「10%増量」について、百分率で表された10%を0.1と捉えることはできているが、「増量後の量」が「増量前の量」の110%になることを捉えることはできていないと考えられる。又は、「増量後の量」が「増量前の量」の1.1倍と捉えることができていないと考えられる。
- ・②のように解答した児童は、「10%増量」について、「増量後の量」は「増量前の量」の10倍と捉えていると考えられる。



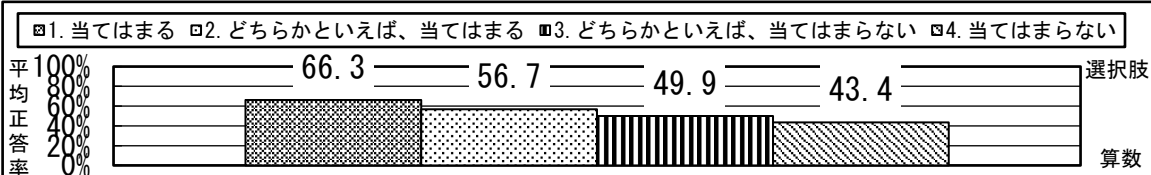
○指導改善のポイント

- ・基準量と比較量、割合の関係を正しく捉えるために、言葉や図、式を関連付けながら数量の関係を考察できるようにすることが大切である。
- ・例えば、「10%増量」と書かれている増量後のハンドソープの量が、増量前のハンドソープの量の何倍になっているのかを考え、説明する活動が考えられる。
- ・上記右上の図のように、基準量を100%として10%や110%に当たる比較量を表したり、基準量を1として0.1や1.1に当たる比較量を表したりすることで、「10%増量」について「増えた分」と「増量後の量」の違いを明らかにして図と式や言葉を用いて説明する活動を行い、数量の関係を捉えることができるようにすることが大切である。

クロス集計 児童質問調査×算数正答率

学校質問調査(58)

算数の授業で、どのように考えたのかについて説明する活動をよく行っていますか。



この質問に肯定的に回答した児童の方が、算数全体の正答率が高い。

③理科

調査結果の概況（内容別の正答率）

平均正答率			青森県 (公立)	全国 (公立)	全国比
学習指導要 領の区分・ 領域	A区分	「エネルギー」を柱とする領域	48.6	46.7	+1.9
		「粒子」を柱とする領域	51.6	51.4	+0.2
	B区分	「生命」を柱とする領域	55.5	52.0	+3.5
		「地球」を柱とする領域	68.2	66.7	+1.5
評価の観点	知識・技能		58.2	55.3	+2.9
	思考・判断・表現		59.3	58.7	+0.6
	主体的に学習に取り組む態度		—	—	—
問題形式	選択式		55.3	54.7	+0.6
	短答式		73.0	69.7	+3.3
	記述式		49.5	45.2	+4.3

A・B両区分とも全国を上回っているが、「エネルギー」を柱とする領域は平均正答率5割を下回っている。
※前回調査（令和4年度）も同傾向。

平均正答率は約5割で、全国に比べて、誰もが理解できるように、自分の考えを正しく表現できている児童の割合が高い。

「エネルギー」を柱とする領域における課題のある点			青森	全国
【大問2】	(1) 電気を通す物と磁石に引き付けられる物に関する知識を身に付けることに課題がある。知識・技能		9.7	10.6
	(2) 電気が通る回路のつくり方に関して理解し、表現することに課題がある。思考・判断・表現		39.2	42.9

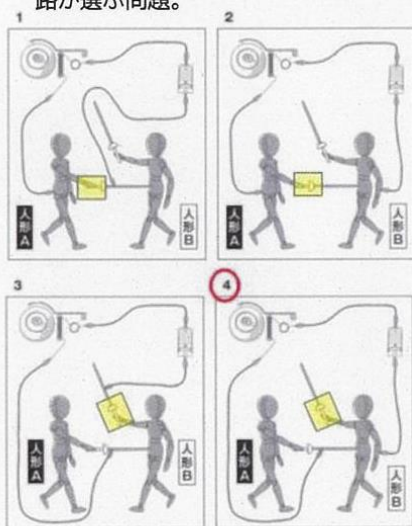
- (1) アルミニウム、鉄、銅の性質について、次の中から当てはまる番号を選ぶ問題。

※選択肢 略

学習指導に
当たって

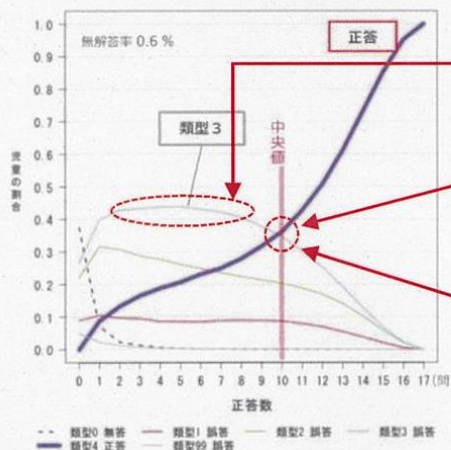
「磁石の性質」と「電気の通り道」では、同じ対象物を用いて学習することが多い。学習した知識を身の回りで見られる事物・現象と関連付けたり、様々な内容で習得した知識を整理したりして、物質の性質に関する理解を深めることが大切である。

- (2) 「人形Aの剣を人形Bに当てたときだけ、かね(ベル)が鳴る」のは、どのような回路か選ぶ問題。



黄色の部分が絶縁部分。本県の回答類型は、「1」が7.7%、「2」が20.8%、「3」が31.7%、「4」が39.2%である。

【大問2】(2) 正答数別類型割合グラフ



- 「正答数の少ない児童」では、約4割が「類型3」である。
- 「平均的な正答数の児童」においても、正答の割合は4割弱である。
- 「平均的な正答数の児童」で、正答とほぼ同じ割合で「類型3」を回答している。

学習指導に
当たって

回路中にある「電気を通さない持ち手」を見いだすことができていないと考えられる。ものづくりの活動では、解決したい問題を見いだすことや、学習を通して得た知識を活用して、理解を深めることが大切である。実験の計画を振り返ったり、修正したりする活動の充実を図ることが重要である。

エネルギー領域の学習指導の改善のポイント

○「ものづくり」と「言葉や図での表現」との往還でより深い理解

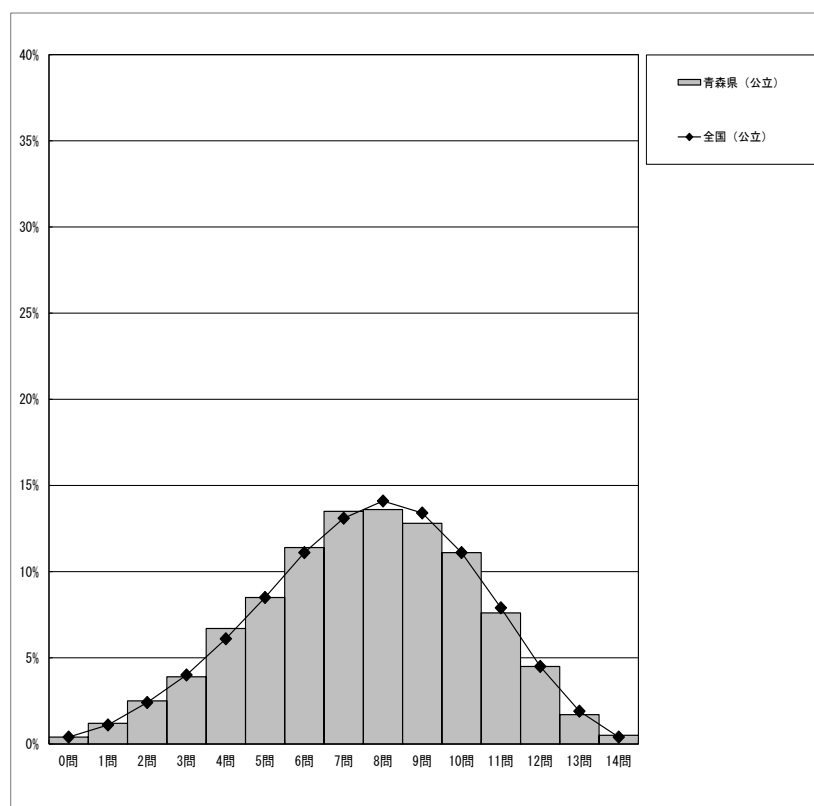
ものづくりでできた装置を言葉や図で表現したり、設定した目的を達成できているかを振り返り、修正したりする活動の充実を図ることで、学んだことの意義を実感できるようにすることが重要である。

Ⅲ 中学校

Ⅰ 正答率

①国語

・正答数分布グラフ(横軸:正答数 縦軸:割合)・正答数集計値



正答数	青森県(%)	全国(%)
14問	0.5	0.4
13問	1.7	1.9
12問	4.5	4.5
11問	7.6	7.9
10問	11.1	11.1
9問	12.8	13.4
8問	13.6	14.1
7問	13.5	13.1
6問	11.4	11.1
5問	8.5	8.5
4問	6.7	6.1
3問	3.9	4.0
2問	2.5	2.4
1問	1.2	1.1
0問	0.4	0.4

・四分位

	青森県 (公立)	全国 (公立)
第3四分位	10.0問	10.0問
第2四分位	8.0問	8.0問
第1四分位	6.0問	6.0問

□正答数分布グラフ・表

- ・正答数 8 問以上の割合は、全国を下回っている。
- ・正答数 7 問以下の割合は、全国を上回っている。

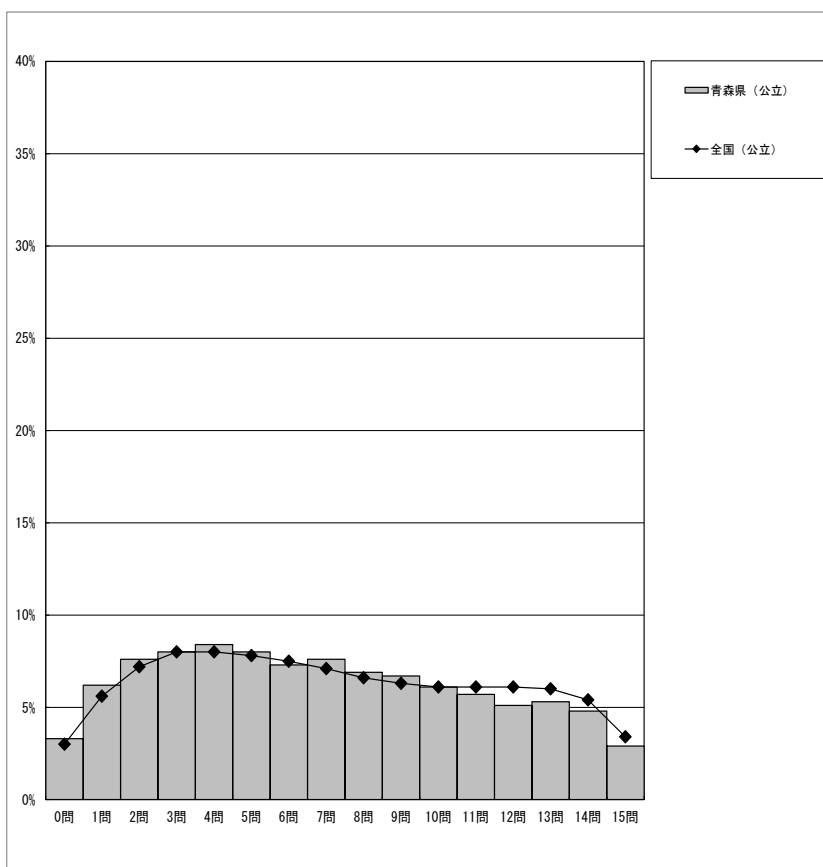
□四分位表

- ・第1四分位、第2四分位、第3四分位とも、全国と同じである。

○正答数の分布傾向は、全国と類似した状況である。

②数学

・正答数分布グラフ(横軸:正答数 縦軸:割合)・正答数集計値



正答数	青森県%	全国%
15問	2.9	3.4
14問	4.8	5.4
13問	5.3	6.0
12問	5.1	6.1
11問	5.7	6.1
10問	6.1	6.1
9問	6.7	6.3
8問	6.9	6.6
7問	7.6	7.1
6問	7.3	7.5
5問	8.0	7.8
4問	8.4	8.0
3問	8.0	8.0
2問	7.6	7.2
1問	6.2	5.6
0問	3.3	3.0

・四分位

	青森県 (公立)	全国 (公立)
第3四分位	10.0問	11.0問
第2四分位	7.0問	7.0問
第1四分位	3.0問	4.0問

□正答数分布グラフ・表

- ・正答数11問～15問の割合は、全国を下回っている。
- ・正答数7問～9問の割合は、全国を上回っている。
- ・正答数4問～5問の割合は、全国を上回っている。
- ・正答数0問～2問の割合は、全国を上回っている。

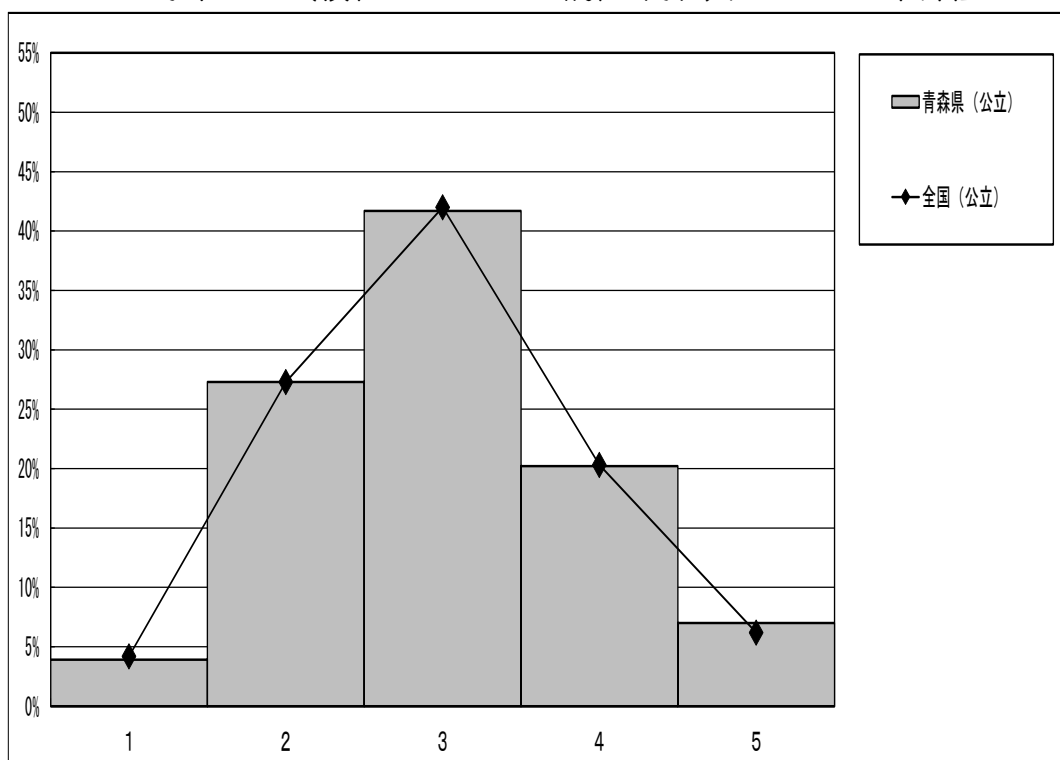
□四分位表

- ・本県と全国の中央値はともに、7.0問であり、全国と同じである。

○分布全体の様子から本県の正答数は、全国と類似した状況である。

③理科

・IRT バンド分布グラフ(横軸:IRT バンド 縦軸:割合)、IRT バンド集計値



IRTバンド集計値		
IRT バンド	割合(%)	
	青森県 (公立)	全国 (公立)
5	7.0	6.2
4	20.2	20.3
3	41.7	42.0
2	27.3	27.3
1	3.9	4.2

※今年度から中学校理科のみに採用された IRT バンドは、IRT スコアを 1～5 の 5 段階に区切ったものです。3を基準のバンドとし、5 が最も高いバンドとなります。

□IRT バンド分布グラフ・IRT バンド集計値

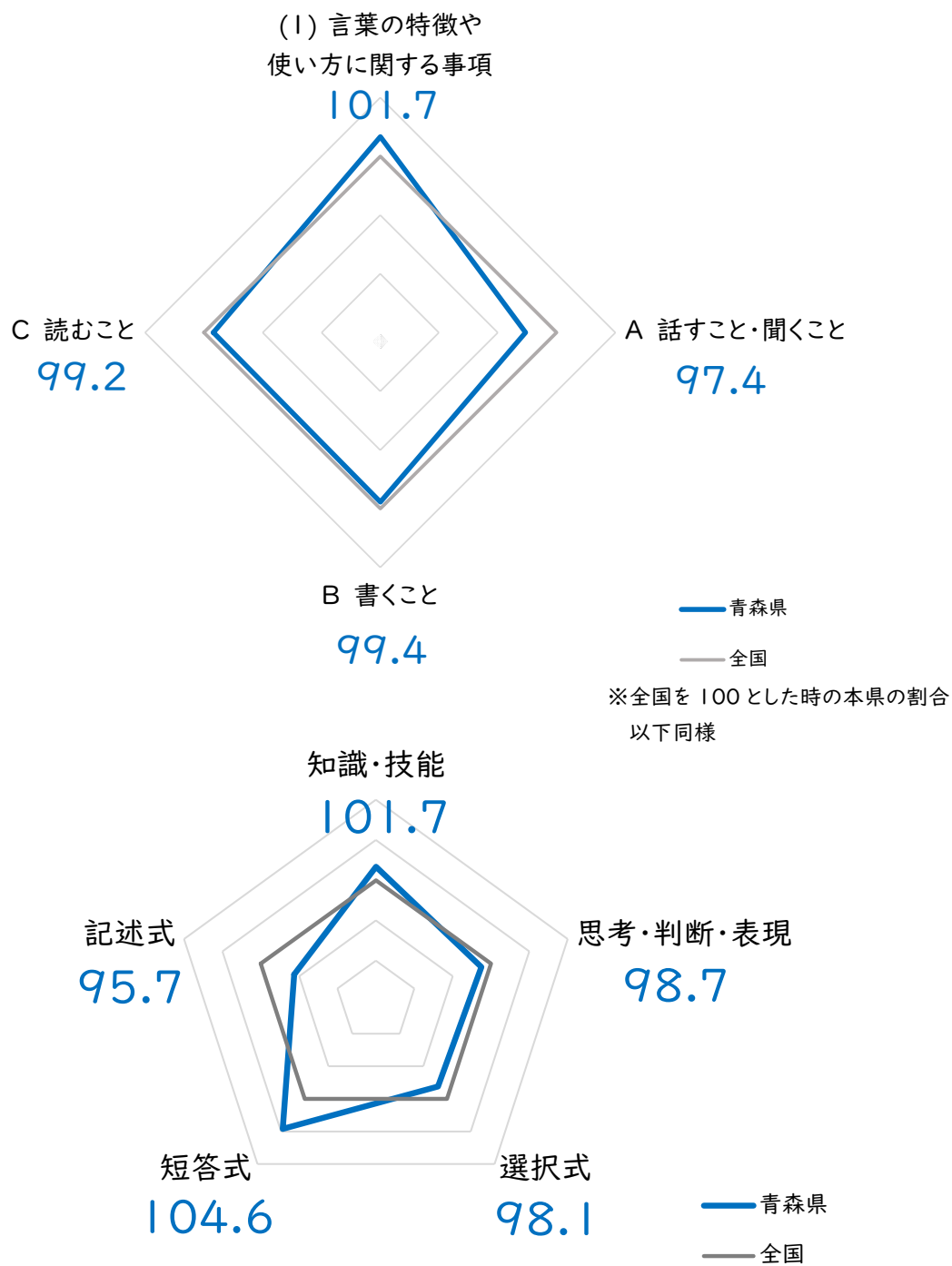
- ・IRT バンド5の割合は、全国を上回っている。
- ・IRT バンド1、3、4の割合は、全国を下回っている。
- ・IRT バンド2 に属する生徒の割合は、全国と同じである。

○IRT バンドの分布の傾向は、全国と類似した状況である。

2 領域別の正答率

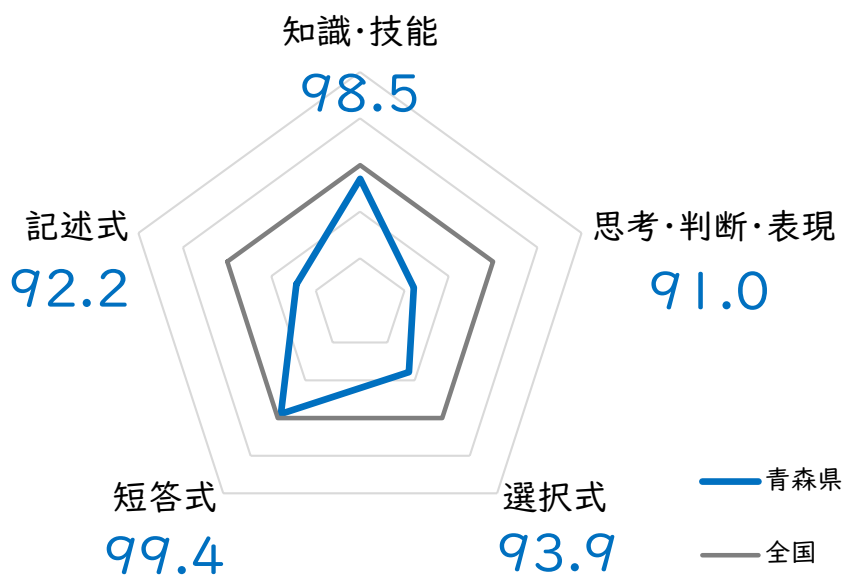
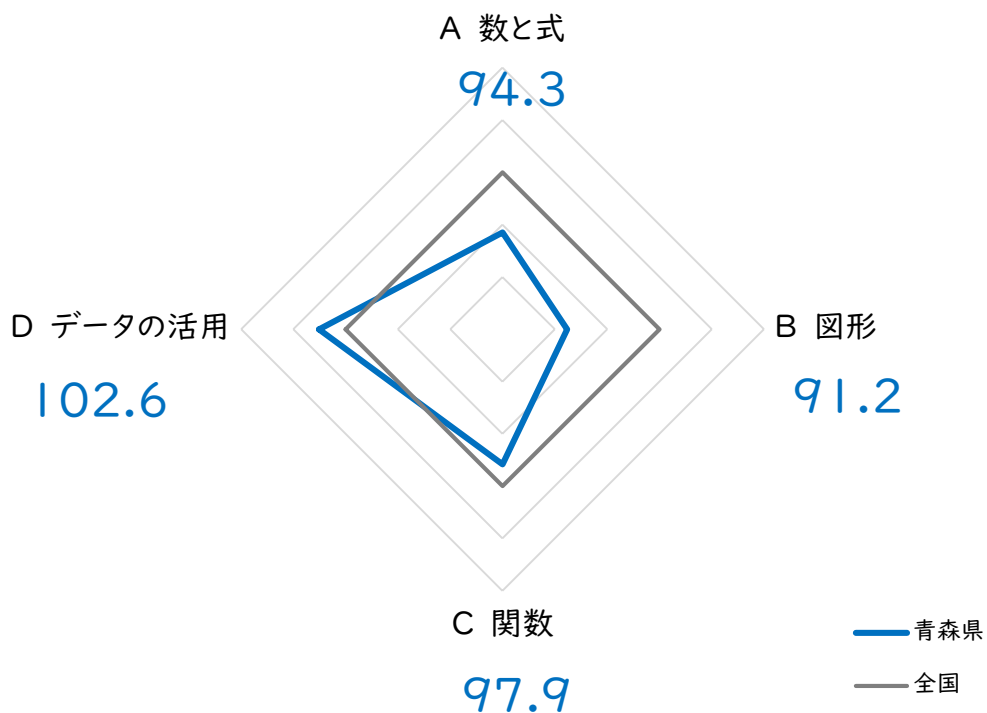
①学習指導要領の内容及び評価の観点、問題形式

(ア) 国語



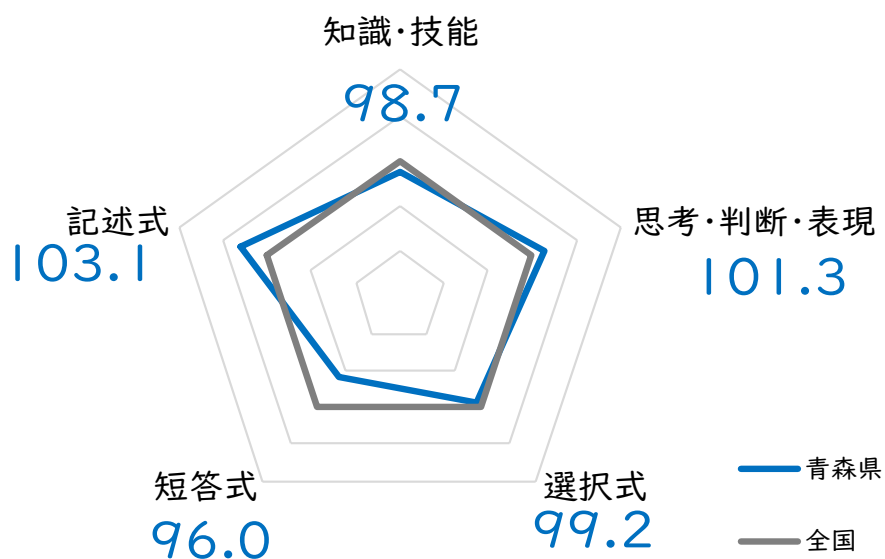
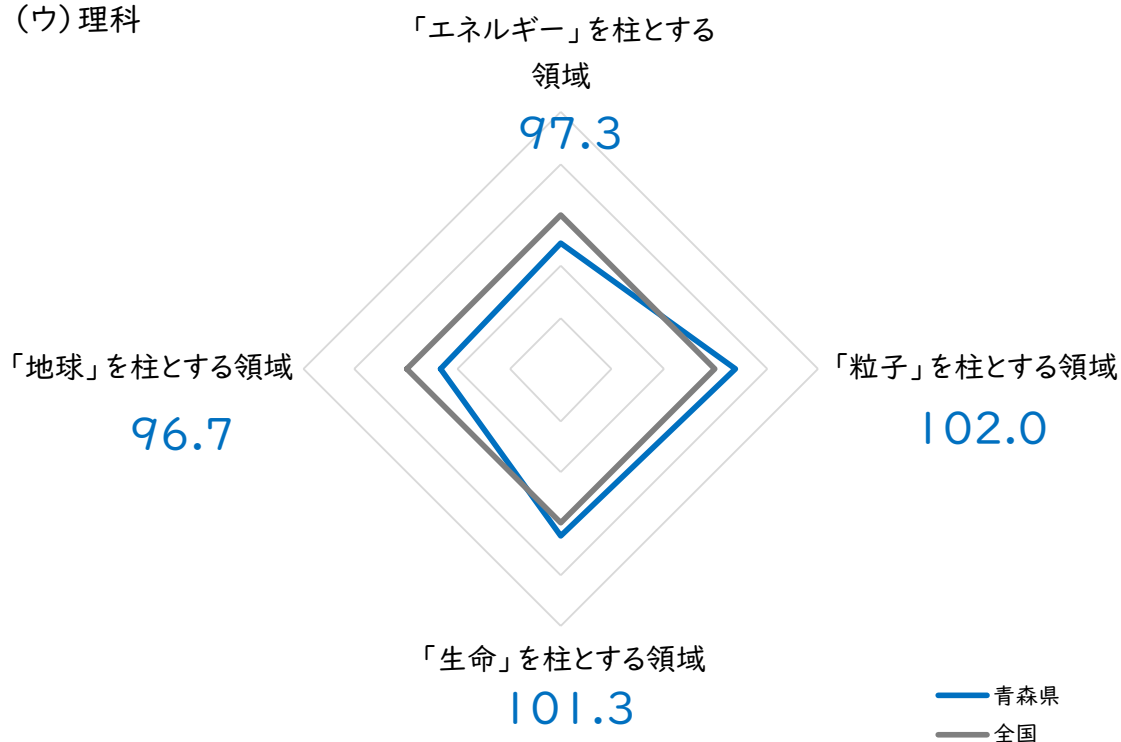
- ・内容別では、「(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項」で、全国を上回っている。また、「A話すこと・聞くこと」、「B書くこと」、「C読むこと」で、全国を下回っている。
- ・評価の観点別では、「思考・判断・表現」で、全国を下回っている。
- ・問題形式別では、「短答式」で、全国を上回っている。

(イ) 数学



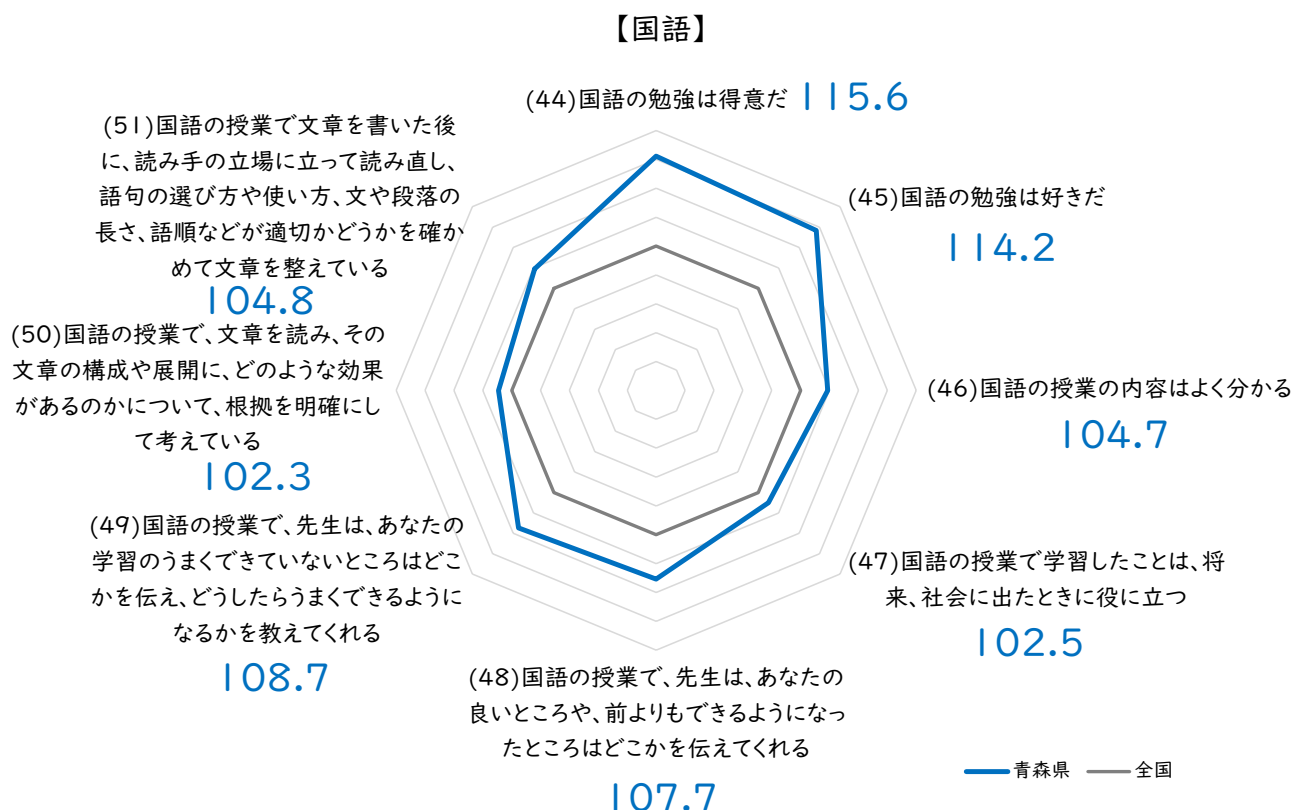
・領域別では、「D. データの活用」が全国を上回っている。また、その他の項目は全国を下回っている。
 ・評価の観点別、問題形式別では、全ての項目で全国を下回っている。

(ウ) 理科



※公開問題のみのデータ抽出である。

- ・領域別では、「粒子」「生命」を柱とする領域で全国を上回り、「エネルギー」「地球」を柱とする領域で全国を下回っている。
- ・評価の観点別では、「思考・判断・表現」で全国を上回っている。
- ・問題形式別では、「記述式」で全国を上回り、「選択式」「短答式」で全国を下回っている。



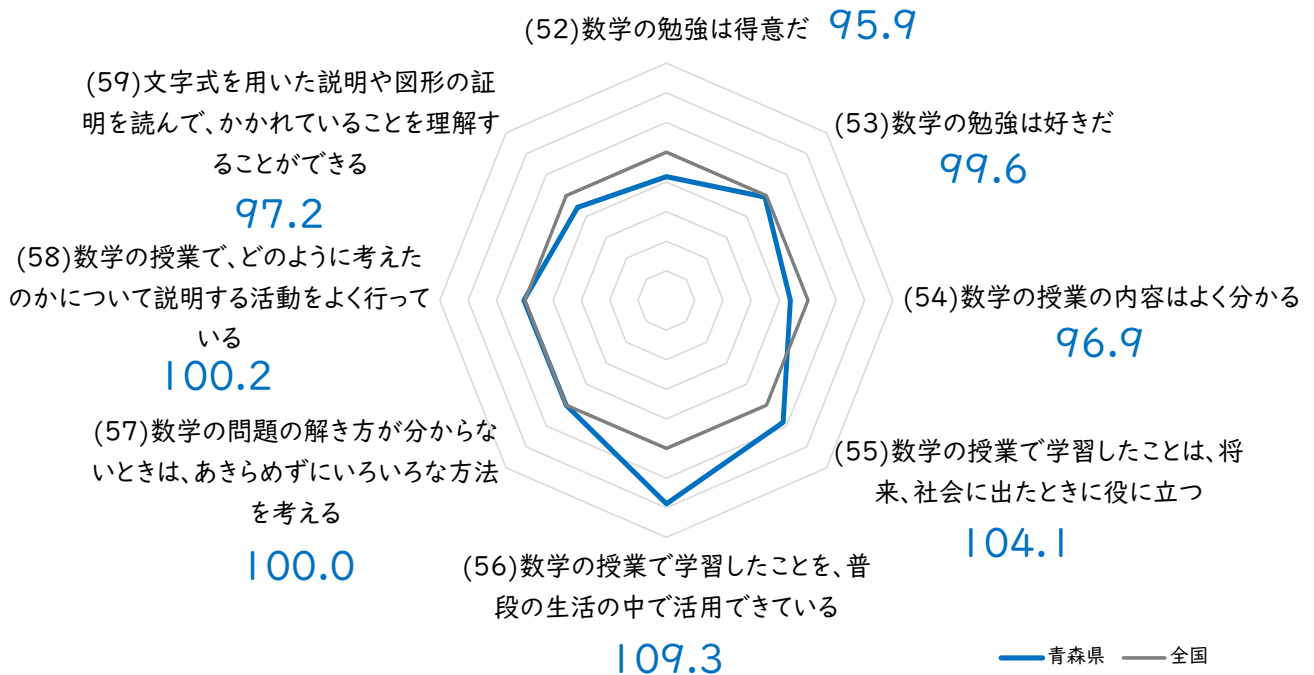
【国語】

・全8項目の全てについて全国を上回っている。

○本県の生徒の国語学習に対する興味・関心の高さや授業の理解度等は概ね良好な状況である。この結果から、主体的・対話的で深い学びの視点での授業改善が行われていると生徒は受け止めていることが伺える。

○特に、個に応じた指導を含めた形成的評価に関する項目（(48)、(49)）において全国を上回っていることから、指導と評価の一体化の視点による授業改善に取り組むことで、生徒の達成感や学ぶ意欲が高まっていると考えられる。また、その成果は、(44) (45) について、肯定的に受け止めている生徒の割合が全国を大きく上回っている状況につながっていると考えられる。

【数学】



【数学】

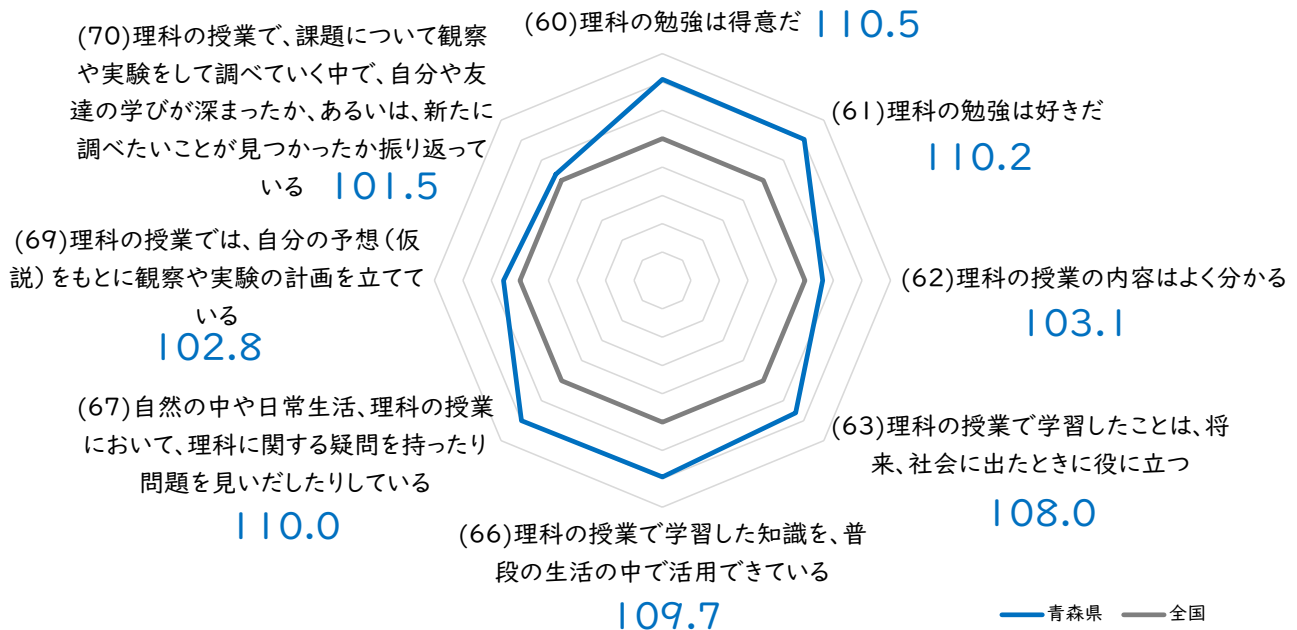
- ・(56)「数学の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できている」について、肯定的に受け止めている生徒の割合は全国を大きく上回っている。
- ・(52)「数学の勉強は得意だ」(53)「数学の勉強は好きだ」について、肯定的に受け止めている生徒の割合は全国を下回っている。

○数学の授業で学習したことが「将来、社会に出たときに役に立つ」「普段の生活の中で活用できている」とする項目が全国を上回っていることから、今後も日々の授業で生活や社会と結び付ける取組を継続していくことが重要である。

○(58)「どのように考えたのか説明する活動をよく行っている」について、肯定的に受け止めている生徒の割合が全国を上回っていることから、今後も活動をさらに発展させ、数学的な表現を用いて説明できるよう指導することが重要である。

○「数学の授業の内容はよく分かる」について、肯定的に受け止めている生徒の割合は、全国を下回っていることから、これまでの指導を大切にしながらも、身に付けさせたい資質・能力を明確にした授業改善に取り組んでいく必要がある。

【理科】

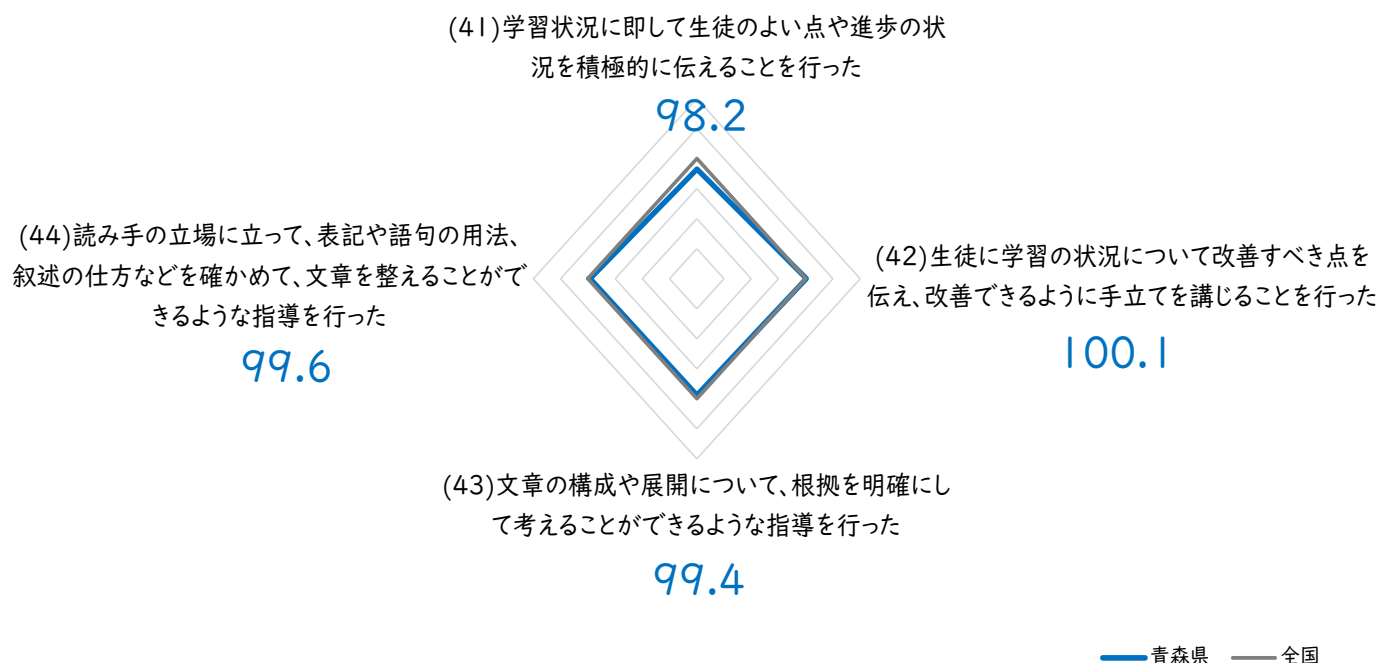


【理科】

・全8項目の全てについて全国を上回っている。

- 本県の生徒の理科学習に対する興味・関心の高さや授業の理解度等は概ね良好な状況である。この結果から、日常生活や社会との関連を重視した授業が行われていると、生徒は受け止めている。
- 探究の過程を意識し、生徒自らが課題を解決するための時間を確保することが求められる。また、理科学習に対する興味・関心の高さを、知識及び技能や思考力、判断力、表現力等の資質・能力の育成につなげられるような、更なる授業改善が重要である。

【国語】

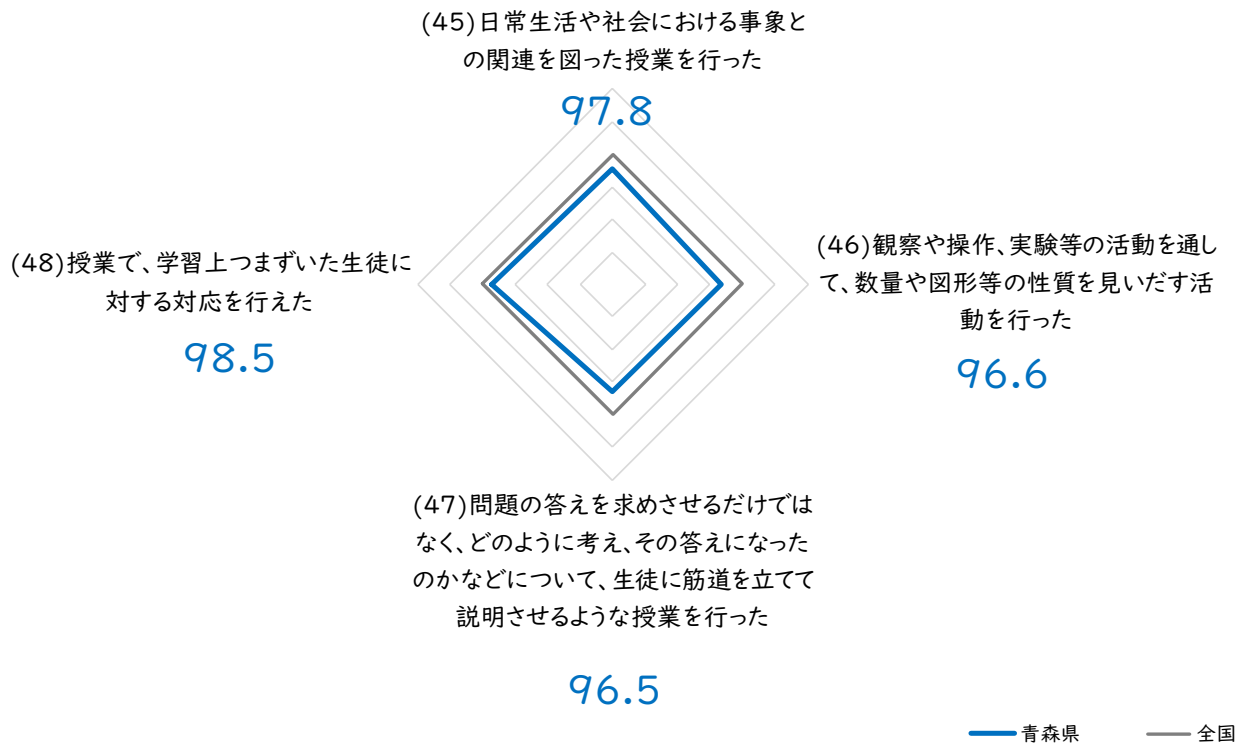


【国語】

- ・(42)「生徒に学習の状況について改善すべき点を伝え、改善できるように手立てを講じることを行った」について、肯定的に受け止めている学校の割合は、全国と同程度である。
- ・(41)「学習状況に即して生徒のよい点や進歩の状況を積極的に伝えることを行った」、(43)「文章の構成や展開について、根拠を明確にして考えることができるような指導を行った」、(44)「読み手の立場に立って、表記や語句の用法、叙述の仕方などを確かめて、文章を整えることができるような指導を行った」について、肯定的に受け止めている学校の割合は、全国を下回っている。

○授業において育てたい資質・能力を明確にして生徒にも示し、生徒が自らの学習を調整できるよう、より一層の指導の充実に取り組む必要がある。

【数学】

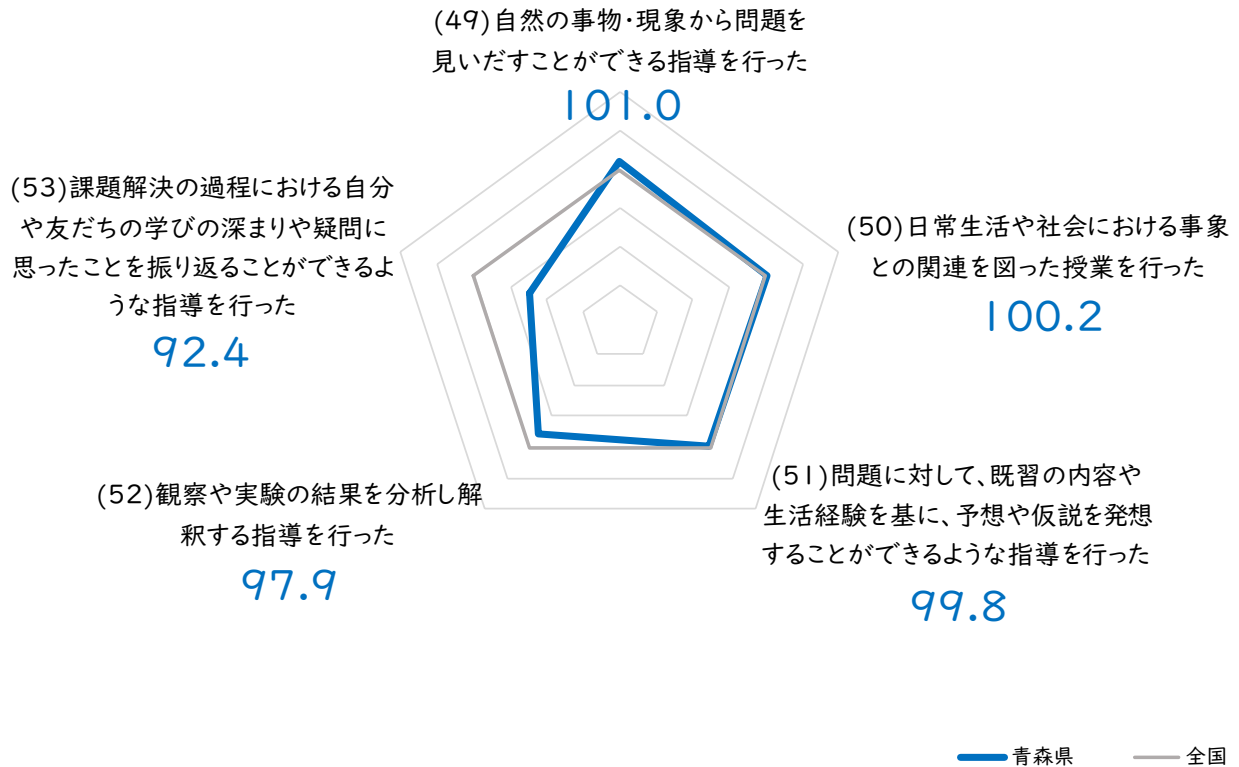


【数学】

・全4項目の全てについて、肯定的に受け止めている学校の割合が全国を下回っている。

○習得・活用・探究という学びの過程の中で、数学的な見方・考え方を働かせながら、新しい概念を形成したり、よりよい方法を見いだしたりするなど、新たな知識・技能を身に付け、それらを統合することにより、思考や態度の変容につながる「深い学び」の実現に取り組む必要がある。

【理科】



【理科】

- ・(51)「問題に対して、既習の内容や生活経験を基に、予想や仮説を発想することができるような指導を行った」、(52)「観察や実験の結果を分析し解釈する指導を行った」、(53)「課題解決の過程における自分や友だちの学びの深まりや疑問に思ったことを振り返ることができるような指導を行った」の3つの項目について、肯定的に受け止めている学校の割合が全国を下回っている。

○学校質問調査による受け止めと生徒質問調査による受け止めにより、今後には「課題の把握」「課題の探究」「課題の解決」の学習過程を重視し、生徒自らが課題をもって学習に取り組むことや探究の過程を振り返ることができるよう、より一層取り組む必要がある。

②数学

【本県の結果のポイント】

- 「データの活用」の平均正答率は高く、また評価の観点における「知識・技能」および選択式・短答式問題の平均正答率も高い。
 - ・大問6(1)事柄が常に成り立つとは限らないことを説明する場面において、反例をあげることができる。(62.7%)
 - ・大問7(1)必ず起こる事柄の確率について理解できている。(73.6%)
 - ・大問8(1)事象に即して、グラフから必要な情報を読み取ることができる。(69.8%)
- 「数と式」「図形」「関数」に課題が見られ、評価の観点における「思考・判断・表現」および記述式問題に課題がみられる。
 - ▼大問1、大問4 素数や y の増加量など用語の意味を理解することに課題がある。(【1】28.5%, 【4】37.6%)
 - ▼大問6(2)構想を立てて説明し、統合的・発展的に考察することに課題がある。(21.7%)
 - ▼大問8(2)事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することに課題がある。(34.3%)
 - ▼大問9(2)(3)証明を振り返り、統合的・発展的に考察することに課題がある。(【2】31.3%, 【3】30.1%)

・結果のポイント① 数学の用語の意味の理解に課題がある。

【具体的な設問例 大問1】

下の1から9までの数の中から素数を全て選び、選んだ数のマーク欄を黒く塗りつぶしなさい。

1 2 3 4 5 6 7 8 9

正答	2, 3, 5, 7
誤答例	・1, 2, 3, 5, 7 ・1, 3, 5, 7
誤答例の解説	「1」が素数に含まれると理解している。

指導改善のポイント

生きて働く知識・技能として、素数の概念を理解させる観点からの工夫が必要である。例えば、素因数分解等の学習において、素数の定義を改めて確認し、既習の知識との関連を図りながら理解を深める活動を取り入れることが考えられる。

・結果のポイント② 数学的な表現を用いて、論理的に説明・証明する力(思考力・判断力・表現力)に課題がある。

【具体的な設問例 大問6(2)】

- ⑥ 結菜さんと太一さんは、3、6や12、15のような連続する2つの3の倍数の和がどんな数になるかを調べるために、次の計算をしました。

$$\begin{array}{ll} 3, 6 \text{ のとき} & 3 + 6 = 9 \\ 12, 15 \text{ のとき} & 12 + 15 = 27 \\ 30, 33 \text{ のとき} & 30 + 33 = 63 \end{array}$$

- (2) 連続する2つの3の倍数の和は、9の倍数になるとは限らないことに気づいた二人は、連続する2つの3の倍数の和がどんな数になるかを調べることにしました。

そこで、二人は、 n を整数として、連続する2つの3の倍数を $3n$ 、 $3n+3$ と表してそれらの和を計算し、それぞれ次のように式を定めました。

結菜さんの式の变形

$$\begin{array}{l} 3n + (3n + 3) \\ = 3n + 3n + 3 \\ = 6n + 3 \\ = 3(2n + 1) \end{array}$$

太一さんの式の变形

$$\begin{array}{l} 3n + (3n + 3) \\ = 3n + 3n + 3 \\ = 6n + 3 \\ = 2(3n + 1) + 1 \end{array}$$

結菜さんの式の变形の $3(2n+1)$ から、連続する2つの3の倍数の和は、3の倍数であることがわかります。
太一さんの式の变形の $2(3n+1)+1$ から、連続する2つの3の倍数の和は、どんな数であるといえますか。「 $2(3n+1)+1$ 」という形で書きなさい。

正答例	連続する2つの3の倍数の和は、奇数である。
誤答例	①連続する2つの3の倍数の和は、3の倍数である。 ②連続する2つの3の倍数の和は、2の倍数である。 ③連続する2つの3の倍数は、奇数である。
○誤答例の解説 ①連続する2つの3の倍数の和について、成り立つ事柄を記述しているが $2(3n+1)+1$ から読み取れる事柄を記述することができなかつたと考えられる。 ② $2(3n+1)$ に着目し、2の倍数であると捉えたと考えられる。 ③前提を的確に表現することができなかつたと考えられる。	

指導改善のポイント

ある命題が成り立つことを説明する場面では、文字を用いて表現すること、文字式の意味を読み取ること、計算を行うことなどを関連付けて学習することが重要である。その際、方法を検討したり、変形した式の意味を適切に読み取ったりする機会を設けることや、見通しをもち、推論の過程を数学的に表現する力を養うように指導することが考えられる。

授業アイデア例


「令和4年度【中学校数学】報告書」大問6授業アイデア例



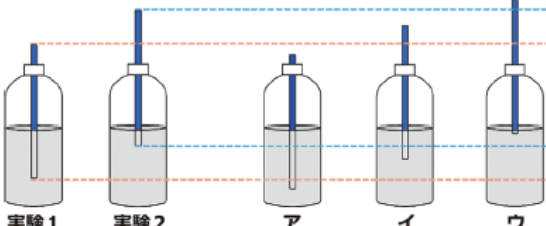
③理科

大問 2(1)〔思考力、判断力、表現力〕・正答率 青森県13.4%(全国14.0%)

○【考察】をより確かなものにするために、音に関する知識及び技能を活用して、変える条件に着目した実験を計画し、予想される実験の結果を適切に説明できるかどうかをみる。



【考察】をより確かなものにするためには、**あと1つ実験を行うとよいですね。**
次のア、イ、ウのどれで実験を行えばよいのかな。



ストローの高さが分かるように
補助線を引いている

(1)

下線部について、【考察】をより確かなものにするために1つ実験を追加するとしたら、上のア、イ、ウのうち、あなたはどの実験を選びますか、**1**つ選びなさい。

上のア、イ、ウのどの実験を選んででもかまいません。

また、上で選んだ実験を行ったときに、オシロスコープの波形から何が分かればよいか、**振動数**という言葉を使って書きなさい。

○誤答としては、「○○○○と比べて」のように、比較して関連付ける表現がないものが多く見られた。
考察をより確かなものにするために適切に実験を計画し、表現することに課題があると考えられる。

大問 1(3)〔思考力、判断力、表現力〕・正答率 青森県33.3%(全国36.2%)

○露頭のどの位置から水が染み出るかを観察する場面において、小学校で学習した知識を基に、地層に関する知識及び技能を関連付けて、地層を構成する粒の大きさとすき間の大きさに着目して分析して解釈できるかどうかをみる。

解答類型		反応率(青森県)	反応率(全国)	正答
1	地層1の下側にある青色の枠内を選んでいるもの	29.6	24.5	
2	地層2の下側にある青色の枠内を選んでいるもの	33.3	36.2	○
3	地層3の下側にある青色の枠内を選んでいるもの	23.9	26.2	
4	地層4の下側にある青色の枠内を選んでいるもの	12.7	12.5	

○誤答としては、全国は3が多いのに対し、青森県は1が多かった。地層1は「水が通り抜ける」とあるため、他の条件と比較することなく、地層1を通りぬけて水が染み出ると考えた生徒が多かったと考えられる。

○授業改善のポイント

指導に当たっては、実験結果を分析、解釈する際に、何に注目し、どのような考え方で表現すればよいのかを指導した上で、生徒自らが見いだした疑問に対して、生徒自らが実験を計画したり、様々な結果から理科の見方・考え方を働かせ、考えを深めさせる場面を設定することが考えられる。

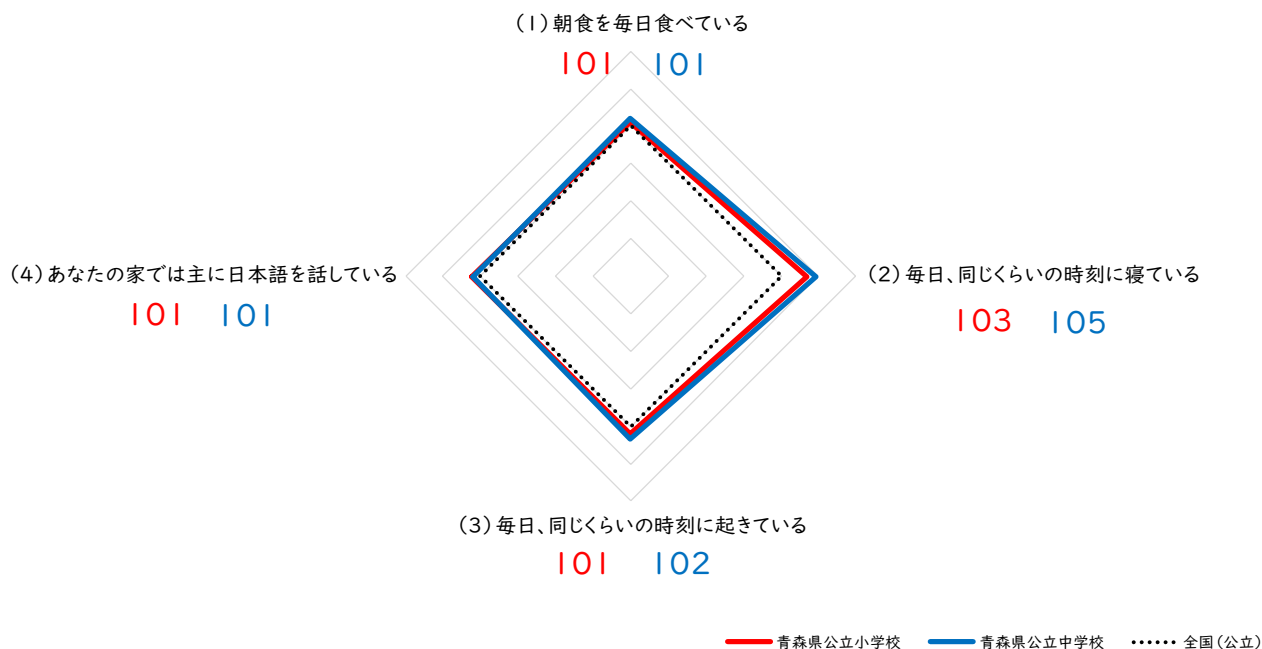
○理科の総括及び今後の対策

質問調査の結果から、日常生活や社会との関連を重視した授業が行われていることが、生徒の「理科の勉強は得意だ、好きだ」を引き出していると考えられる。これからは、科学的に探究する力を育てるように、探究の過程を意識した授業づくり、生徒自らが課題を設定し、実験を計画するなど、生徒主体の学習機会を意図的に設定することが重要である。

Ⅳ 質問調査

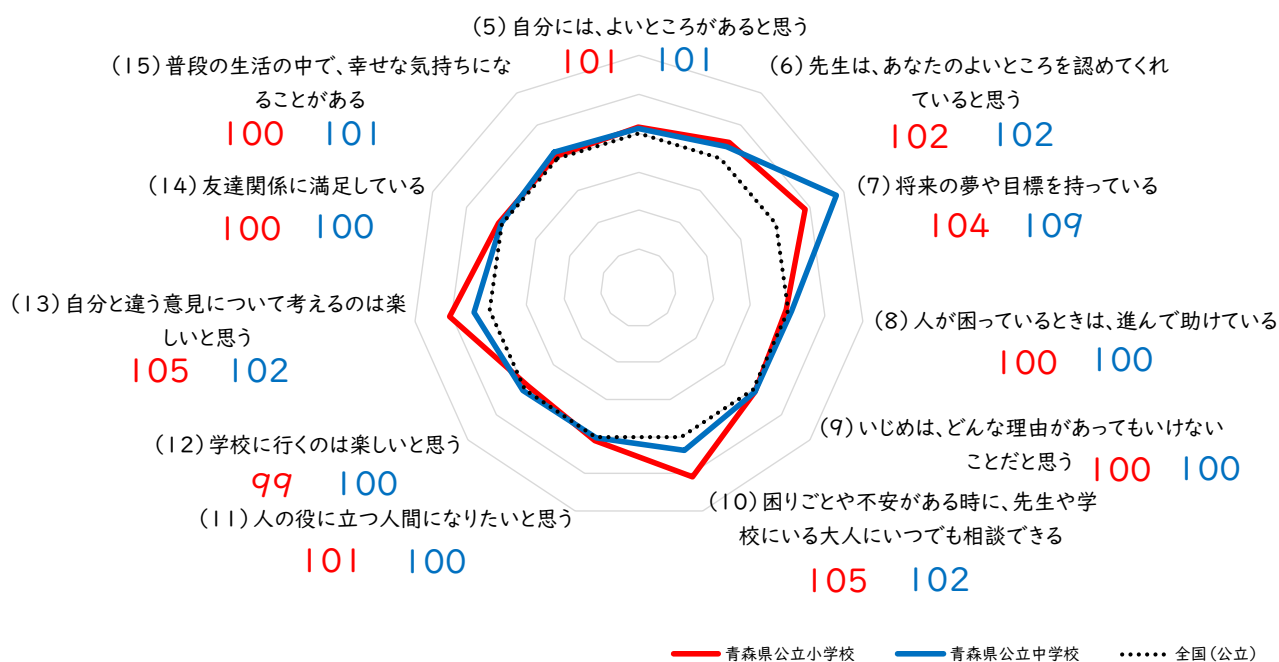
Ⅰ 児童生徒質問調査

① 基本的な生活習慣等



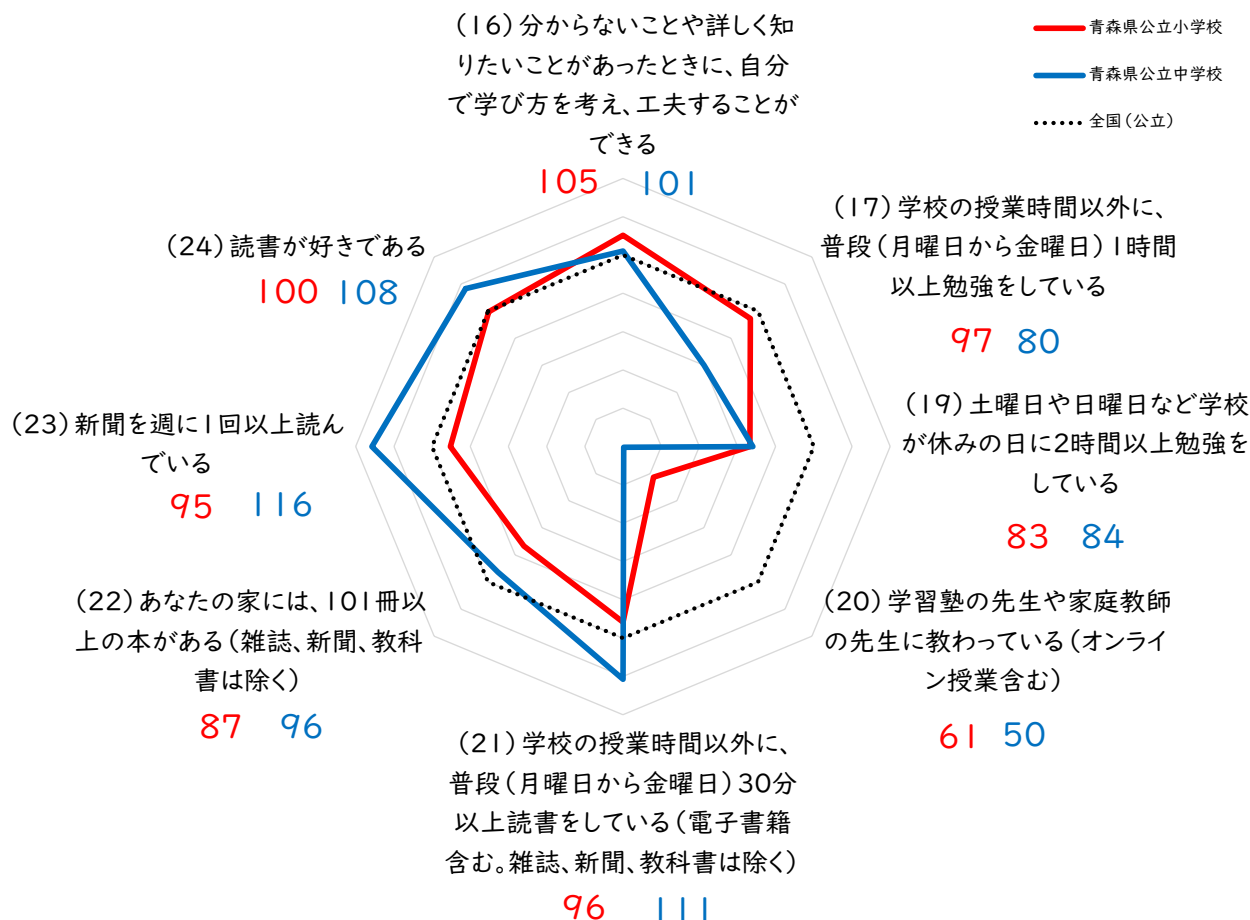
- ・全4項目の全ての項目について、肯定的な回答が全国を上回っている。
- ・特に、小・中学生ともに、(2)「毎日、同じくらいの時刻に寝ている」について、肯定的な回答が全国を上回っている。

②挑戦心、達成感、規範意識、自己有用感、幸福感等



- ・全11項目中10項目について、小・中学校ともに肯定的な回答が全国と同じ又は全国を上回っている。
- ・(12)「学校に行くのが楽しい」について、肯定的な回答は小学校で全国を下回っている。
- ・小学生は、(10)「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できる」、(13)「自分と違う意見について考えるのは楽しい」について、肯定的な回答が全国を上回っている。
- ・中学生は、(7)「将来の夢や目標を持っている」について、肯定的な回答が全国を大きく上回っている。

③学習習慣、学習環境等

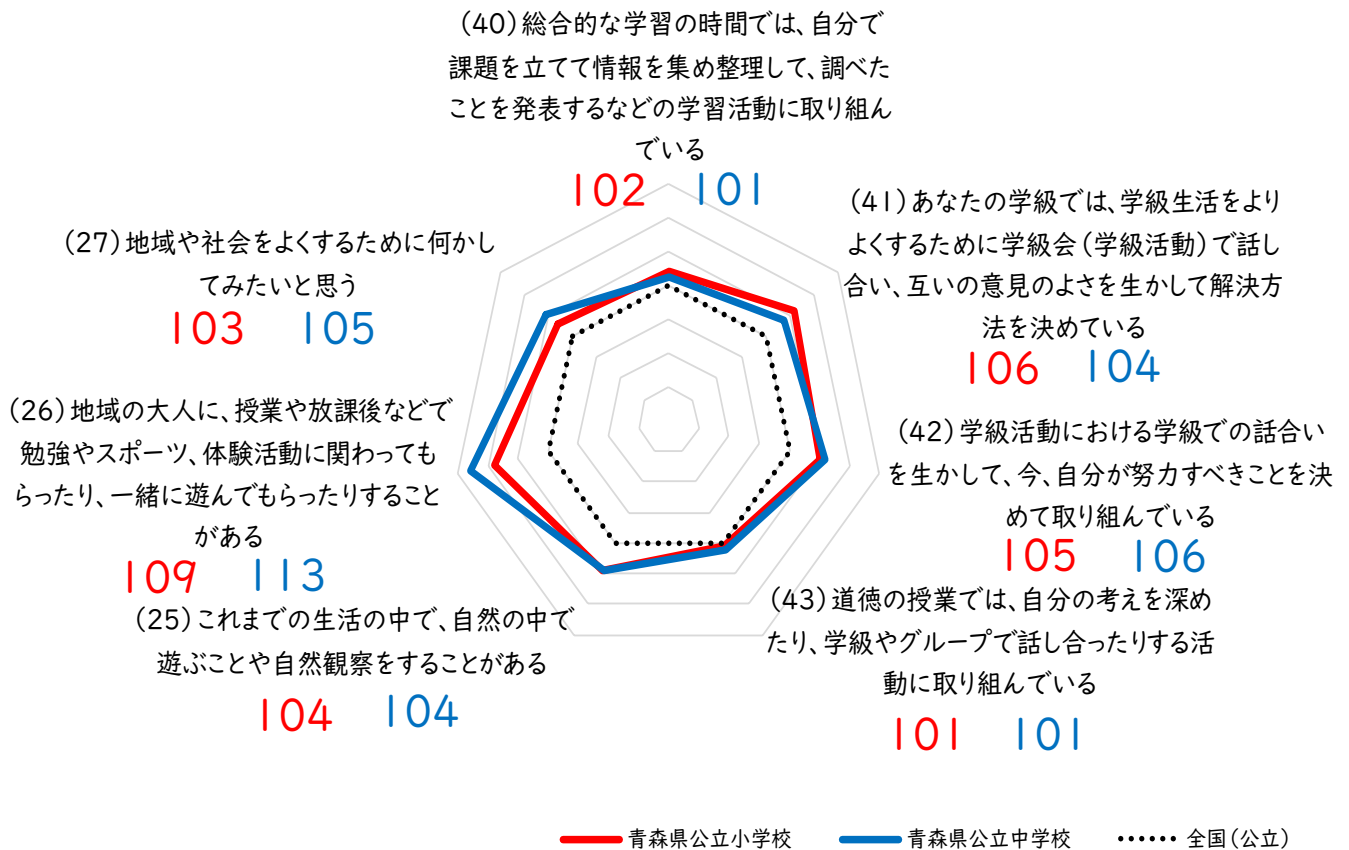


- ・小・中学校ともに、(16)「分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することができる」について、肯定的な回答が全国を上回っている。
- ・(20)「学習塾の先生や家庭教師の先生に教わっている」、(17)「学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)1時間以上勉強している」、(19)「土曜日や日曜日など学校が休みの日に2時間以上勉強している」について、肯定的な回答が全国を下回っている。
- ・中学校では、(21)「学校の授業時間以外に読書をしている」、(23)「新聞を週に1回以上読んでいる」、(24)「読書が好きである」について、肯定的な回答が全国を大きく上回っている。

☆以下の回答をしている児童生徒の方が、教科の平均正答率が高い傾向が見られる。

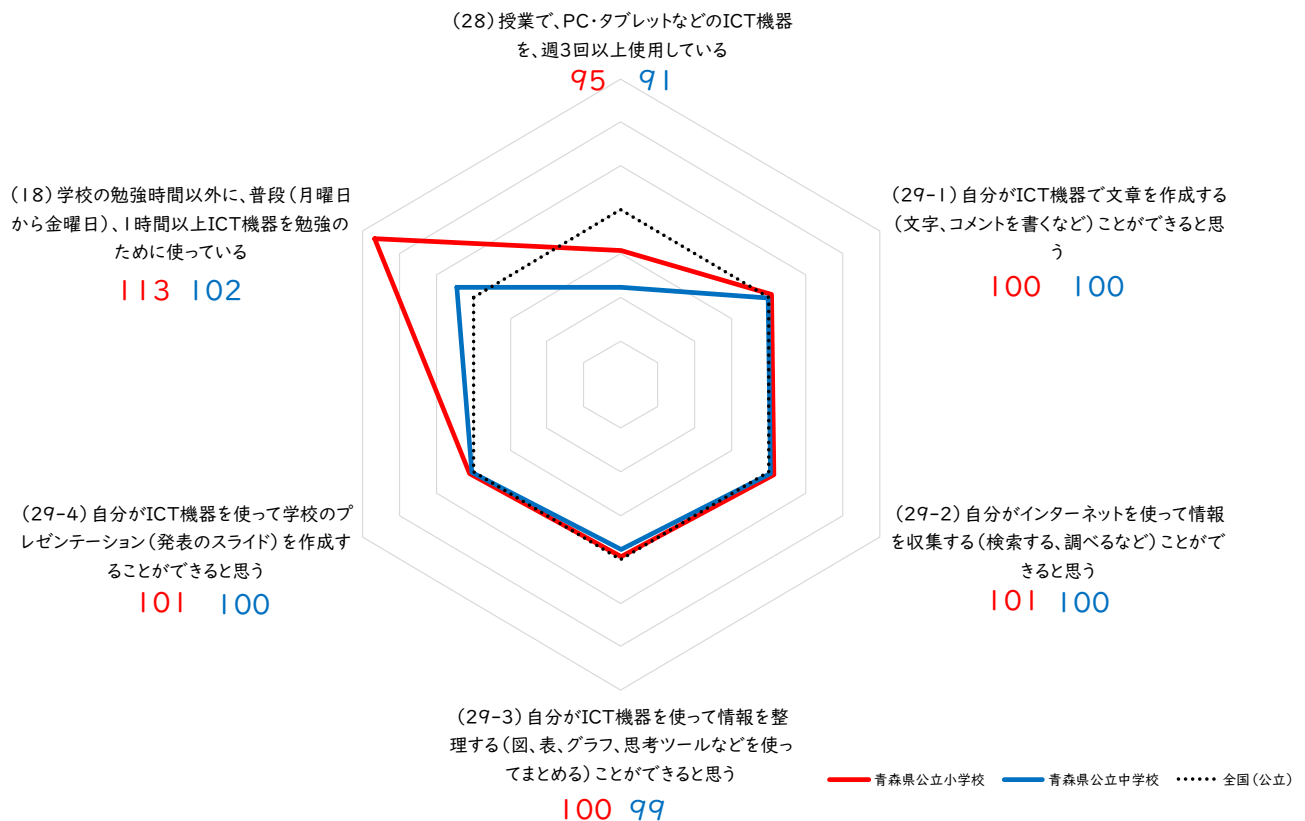
- ・(22) 家に101冊以上の本がある。
- ・(24) 読書が好きである。

④総合的な学習の時間、学級活動、特別の教科 道徳、地域や社会に関わる活動の状況等



- ・全7項目の全てについて、小・中学生ともに肯定的な回答が全国を上回っている。特に、小・中学生ともに、(26)「地域の大人に、授業や放課後などで勉強やスポーツ、体験活動に関わってもらったり、一緒に遊んでもらったりしている」について、肯定的な回答が全国を大きく上回っている。
- ・(41)「話し合いを通して、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めている(いわゆる学級活動(1))」、(42)「学級での話し合いを生かして、自分が努力すべきことを決めて取り組む(いわゆる学級活動(2)(3))」の2項目について、小・中学生ともに、肯定的な回答が全国を上回っている。また、小・中学生ともに、(25)「これまでの生活の中で、自然の中で遊ぶことや自然観察をすることがある」、(27)「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う」について、肯定的な回答が全国を大きく上回っている。

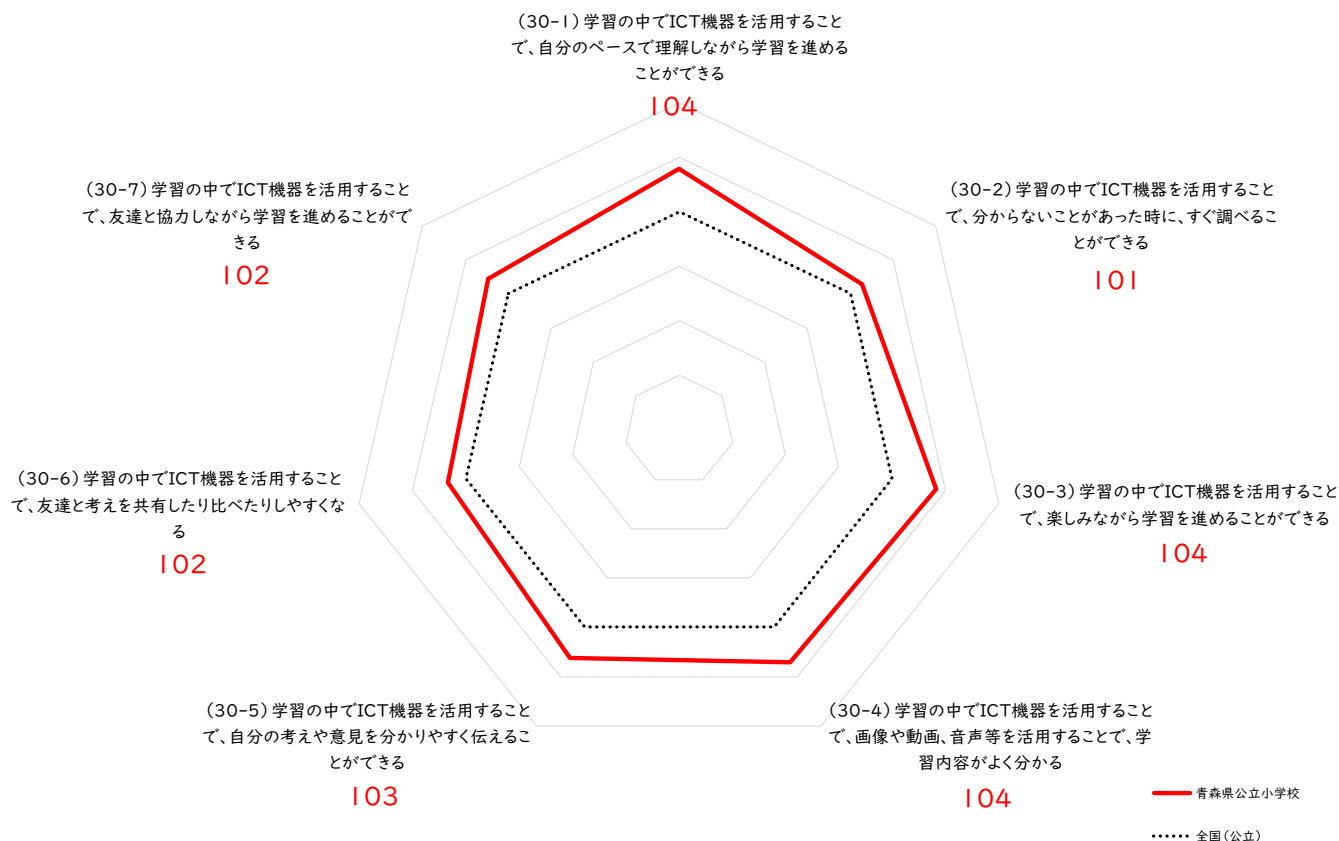
⑤ICT を活用した学習状況



- ・全6項目中4項目について、小・中学生ともに肯定的な回答が全国と同じ又は全国を上回っている。特に、(18)「学校の勉強時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1時間以上 ICT 機器を勉強のために使っている」について、小学生の肯定的な回答が全国を大きく上回っている。
- ・(28)「授業で PC・タブレットを週3回以上使っている」について、小・中学生ともに肯定的な回答が全国を下回っている。

☆以下の回答をしている児童生徒の方が、教科の平均正答率が高い傾向が見られる。

- ・(29-1) 自分がPC・タブレットなどのICT機器で文章を作成する(文字、コメントを書くなど)ことができると思う。
- ・(29-3) 自分がPC・タブレットなどのICT機器で情報を整理する(図、表、グラフ、思考ツールなどを使ってまとめる)ことができると思う。
- ・(29-4) 自分がPC・タブレットなどのICT機器で学校のプレゼンテーション(発表のスライド)を作成することができると思う。



- ・小学生は、全7項目中の全てについて、肯定的な回答が全国を上回っている。
- ・(30-1)「自分のペースで理解しながら学習を進めることができる」、(30-3)「ICT 機器を活用することで、楽しみながら学習を進めることができる」、(30-4)「ICT 機器を活用することで、画像や動画、音声等を活用することで、学習内容がよく分かる」について、肯定的な回答が全国を上回っている。

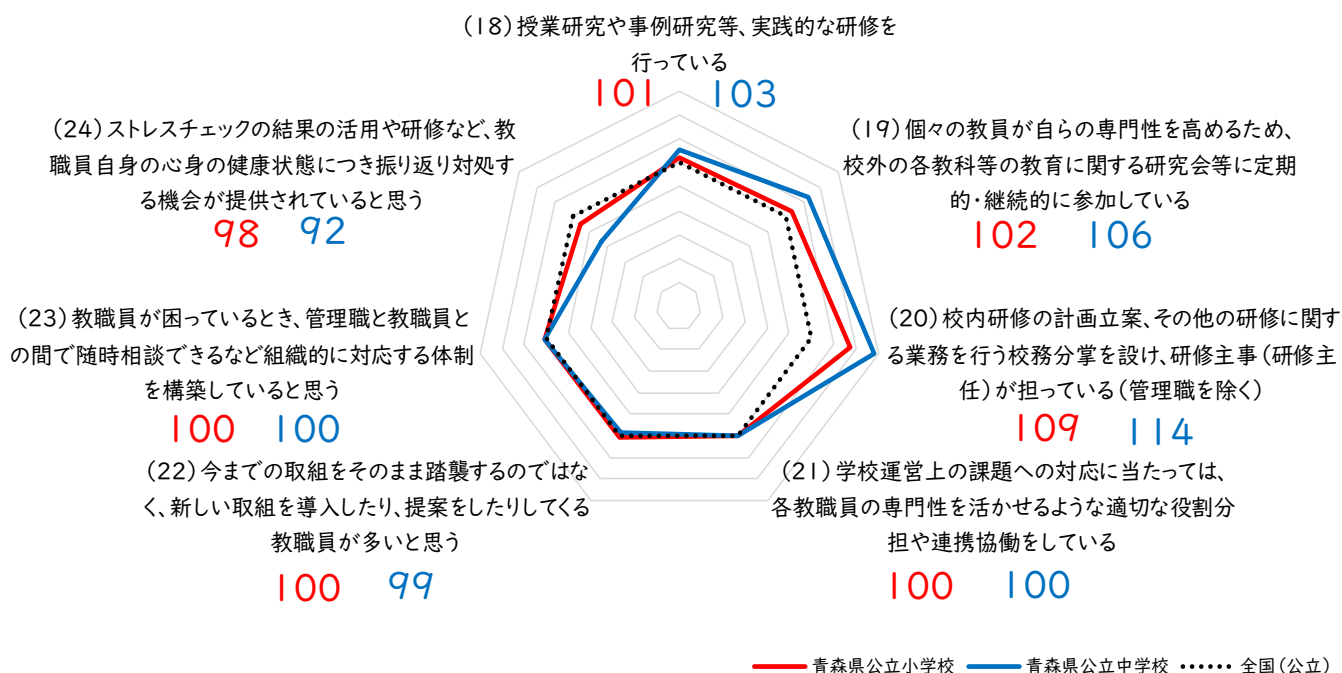
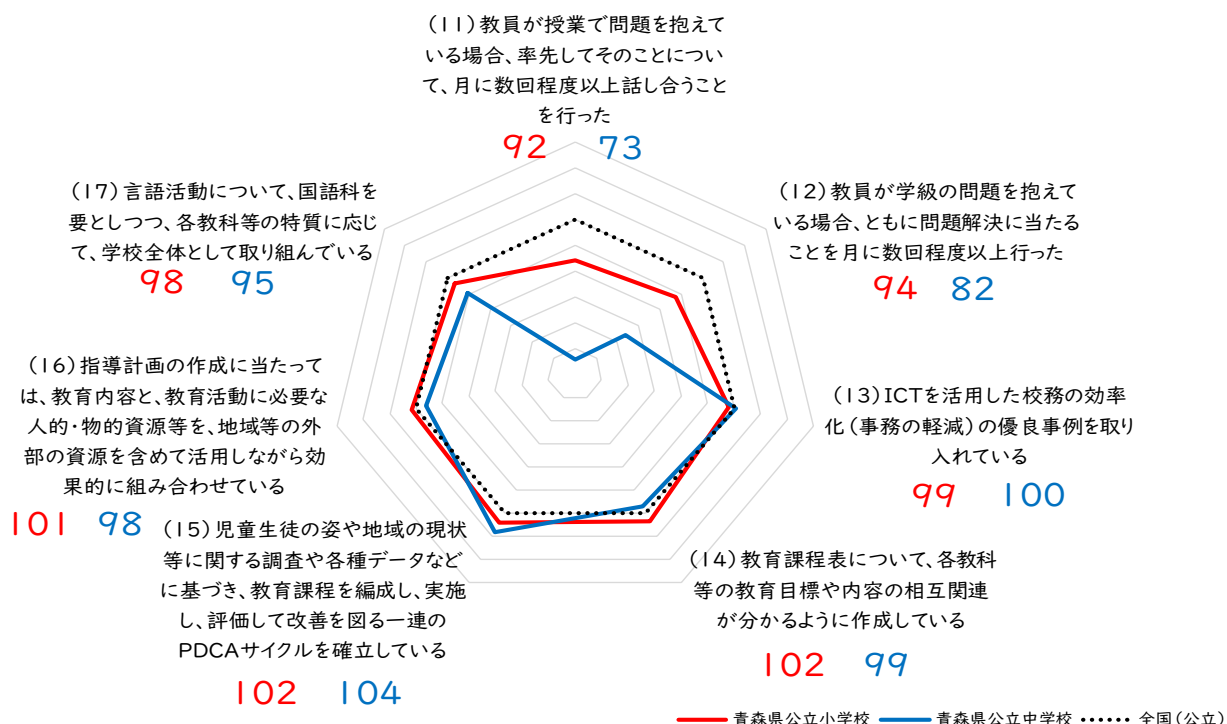
☆以下の回答をしている児童の方が、教科の平均正答率が高い傾向が見られる。

- ・(30-2) ICT機器を活用することについて、分からないことがあった時に、自分はすぐに調べることができると思う。

※中学校については、抽出調査であり、全体の結果が示されていないため、記載していない。

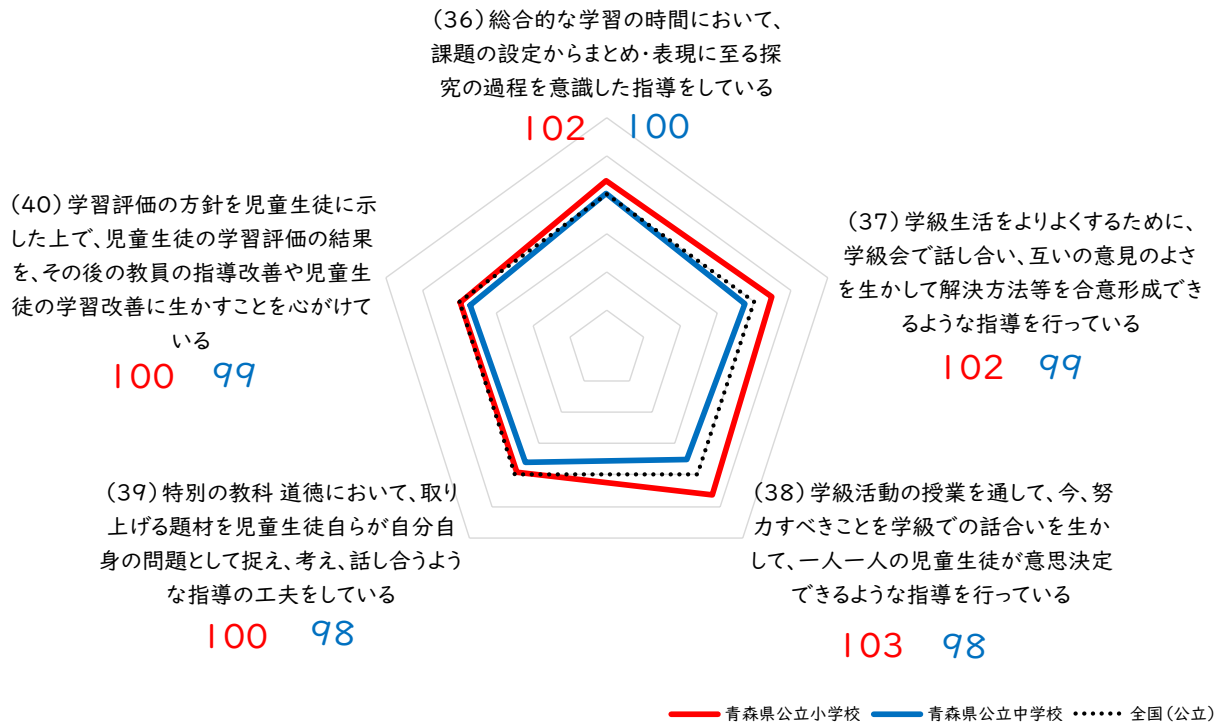
2 学校質問調査

①学校運営に関する状況／教職員の資質向上に関する状況



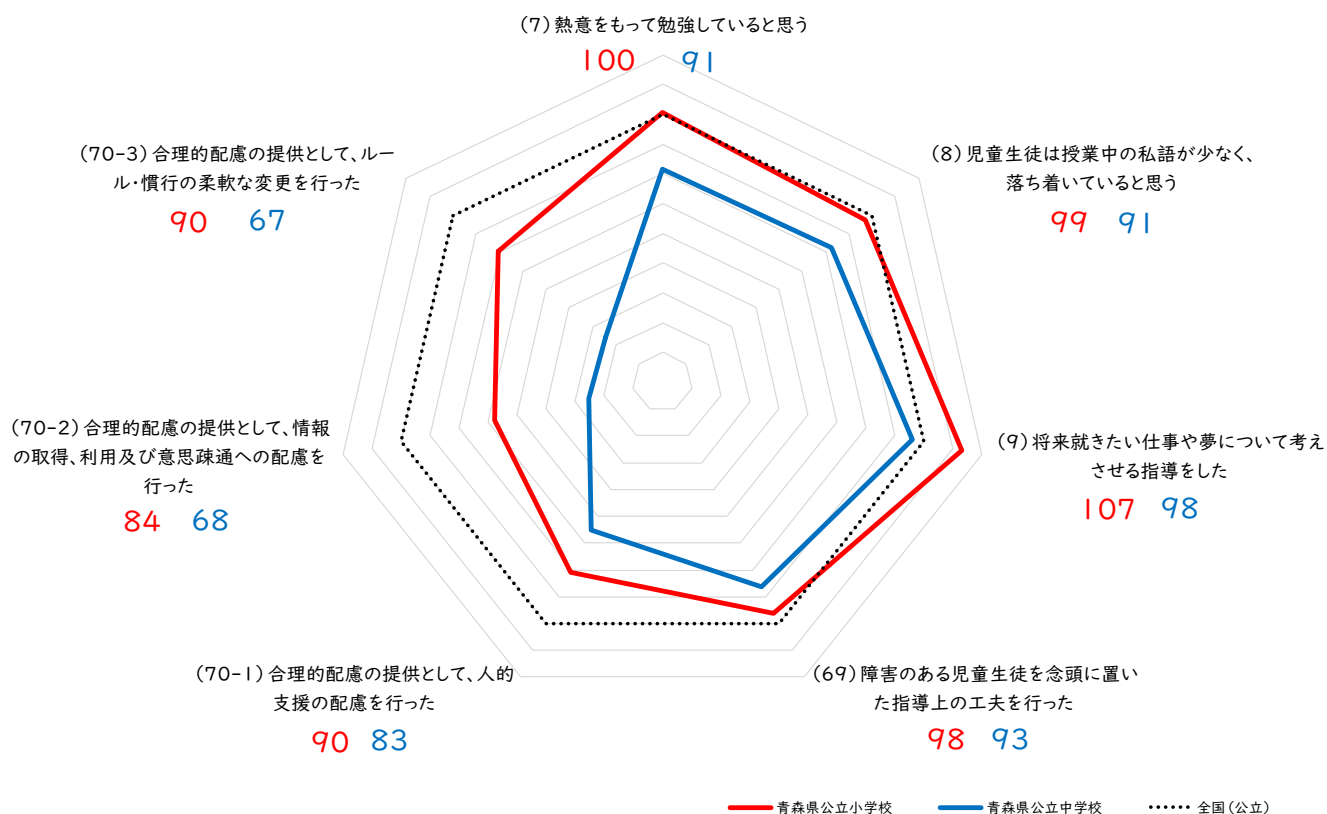
- ・(11)「教員が授業で問題を抱えている場合、率先してそのことについて、月に数回以上話し合うことを行った」、(12)「教員が学級の問題を抱えている場合、ともに問題解決に当たることを月に数回程度以上行った」について、小・中学校ともに、肯定的な回答が全国を下回っている。
- ・(20)「校内研修の計画の立案、その他の研修に関する業務を行う校務分掌を設け、研修主事（研修主任）が担っている」について、小・中学校ともに、肯定的な回答が全国を大きく上回っている。

②総合的な学習の時間、学級活動、特別の教科 道徳の指導方法、学習評価



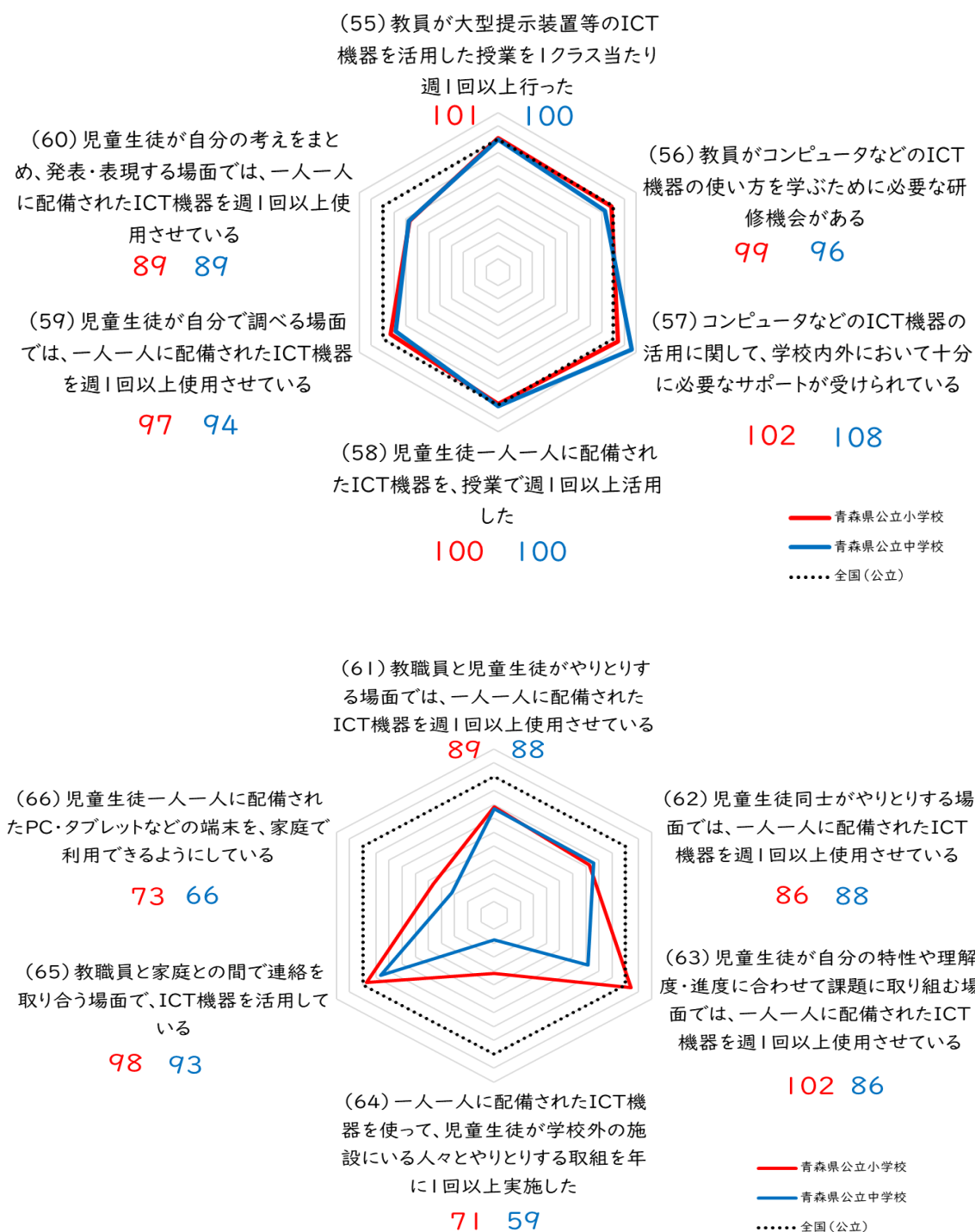
- ・小学校は、全5項目中の全てについて、肯定的な回答が全国と同じ又は全国を上回っている。特に、(38)「学級活動の授業を通して、今、努力すべきことを学級での話し合いを生かして、一人一人の児童生徒が意思決定できるような指導を行っている」について、肯定的な回答が最も上回っている。
- ・中学校は、全5項目中の全てについて、肯定的な回答が全国と同じ又は全国を下回っている。

③生徒指導等、特別な配慮が必要な児童生徒への指導



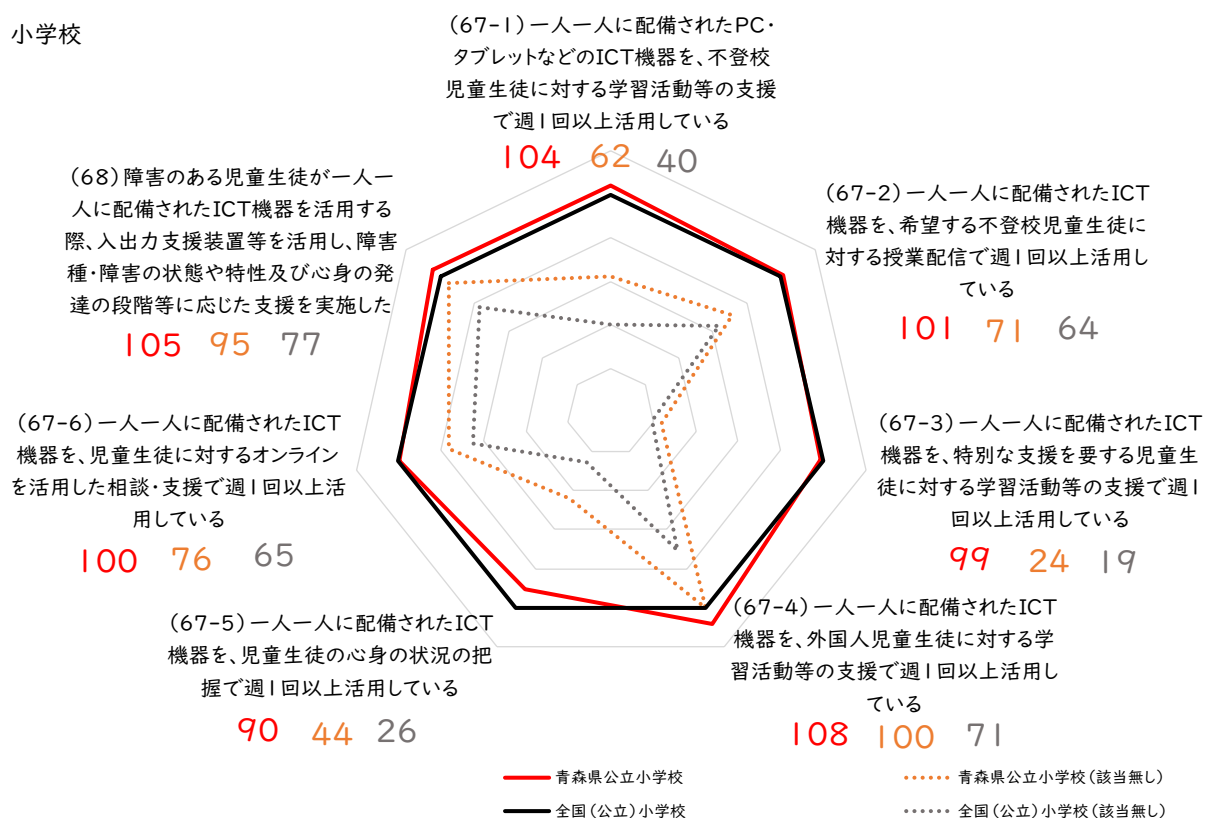
- ・小学校は、(7)「熱意をもって勉強していると思う」、(9)「将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導をした」について、肯定的な回答が全国と同じ又は全国を上回っている。
- ・全7項目中の5項目について、小・中学校ともに肯定的な回答が全国を下回っている。

④ICT を活用した学習状況

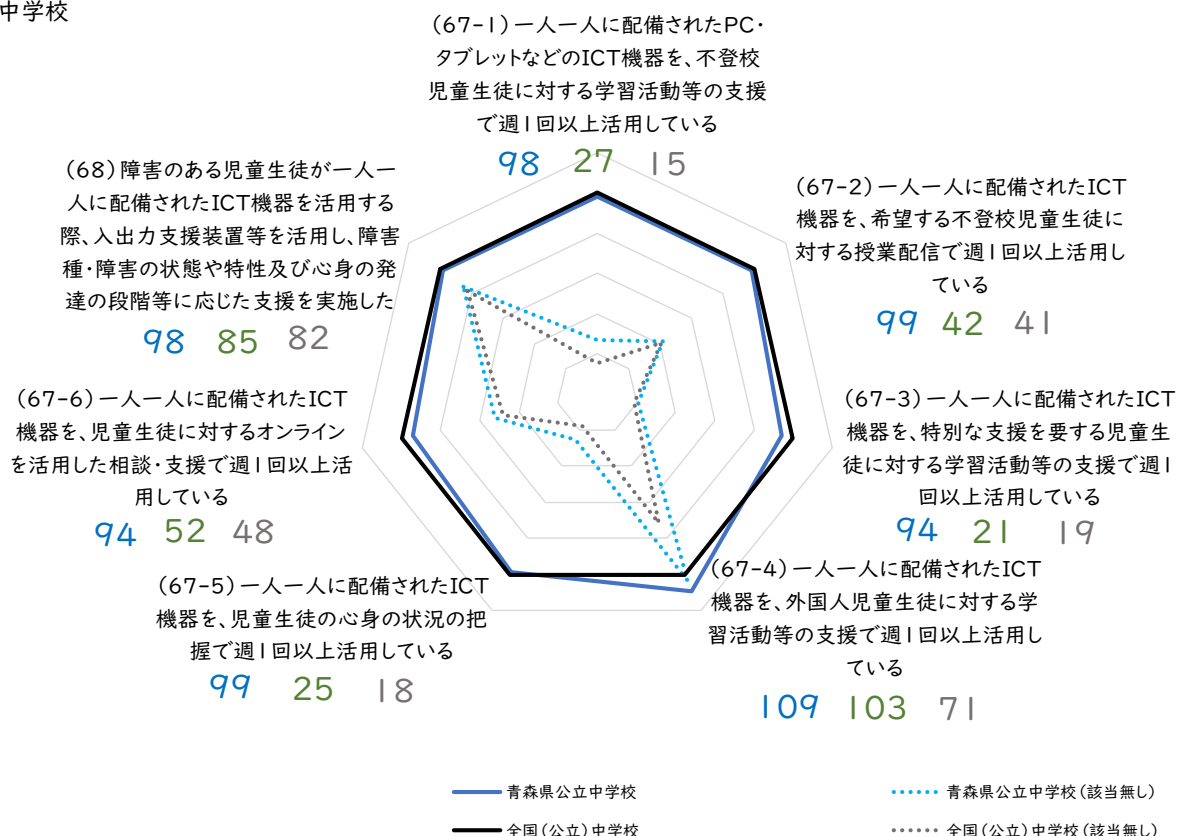


- ・(55) (58) の教員や児童生徒が ICT 機器を授業に使う頻度について、小・中学校ともに肯定的な回答が全国と同じ又は全国を上回っている。
- ・(60) まとめ・発表・表現する場面での使用について、小・中学校ともに肯定的な回答が全国を下回っている。
- ・(61) (62) 教職員と児童生徒又は児童生徒同士でのやりとりする場面での使用について、小・中学校ともに肯定的な回答が全国を下回っている。

小学校



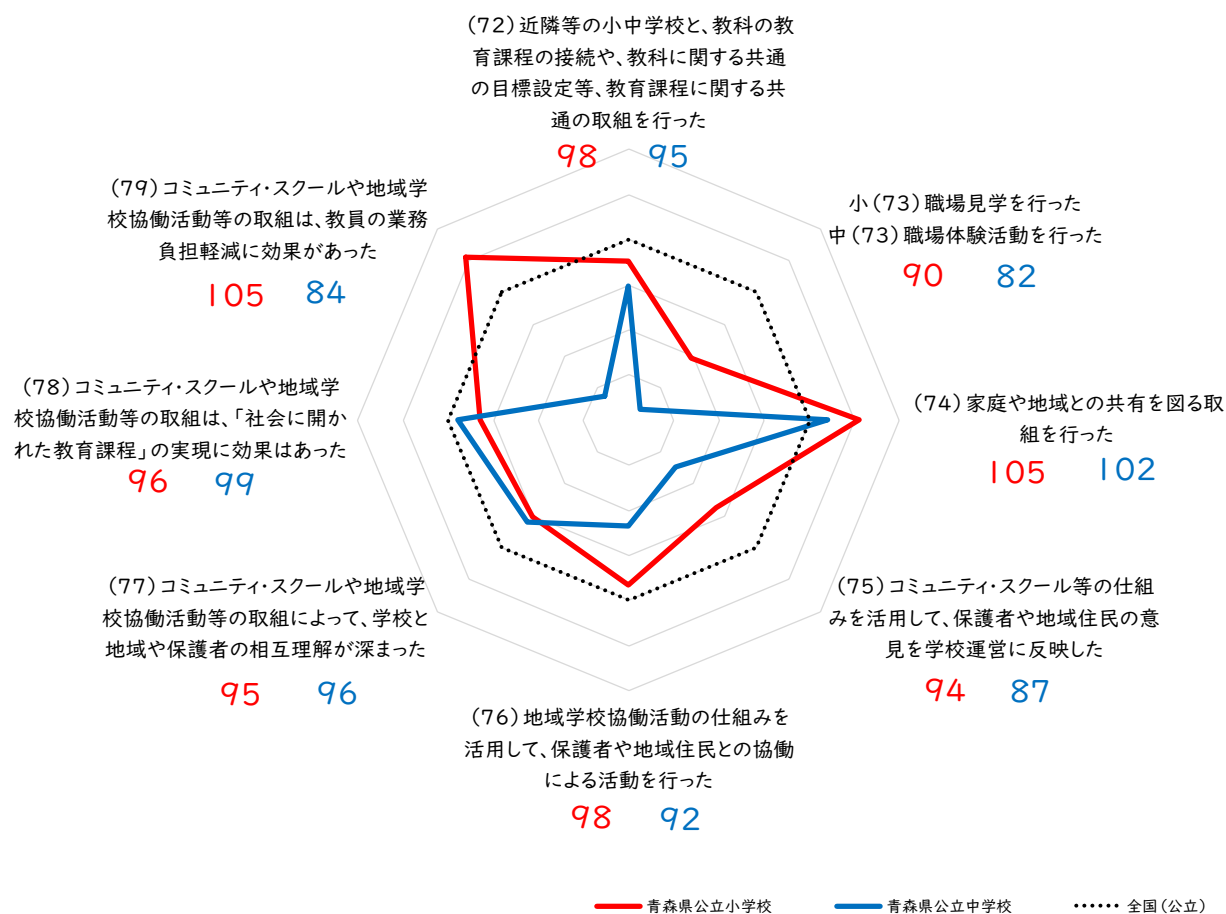
中学校



※上のグラフは各項目における「週1回以上活用している」及び「該当する児童生徒無し」の回答を合わせたものを、全国平均が100となるように作成したものである。また、点線は「該当する児童生徒無し」の回答のみを表している。

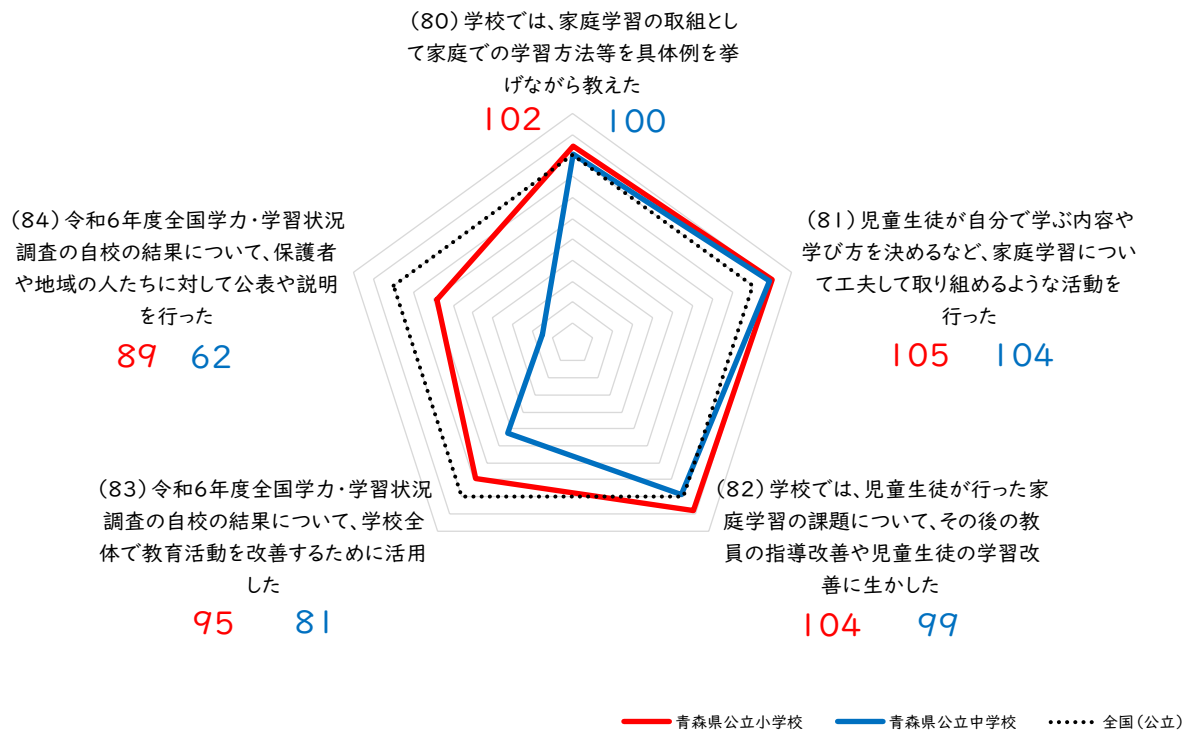
・(67-4)「一人一人に配備されたICT機器を、外国人児童生徒に対する学習活動等の支援で週1回以上活用している」について、小・中学校ともに肯定的な回答が全国と同じ又は全国を上回っている。

⑤小学校と中学校の連携、家庭や地域との連携等



- ・(74)「家庭や地域との共有を図る取組を行った」について、小・中学校ともに肯定的な回答が全国を上回っている。
- ・(75)～(78)コミュニティ・スクールや地域学校協働活動について、小・中学校ともに肯定的な回答が全国を下回っている。
- ・(79)「コミュニティ・スクールや地域学校協働活動等の取組は、教員の業務負担軽減に効果があった」について、小学校は肯定的な回答が全国を上回っている。

⑥家庭学習、全国学力・学習状況調査の結果の活用

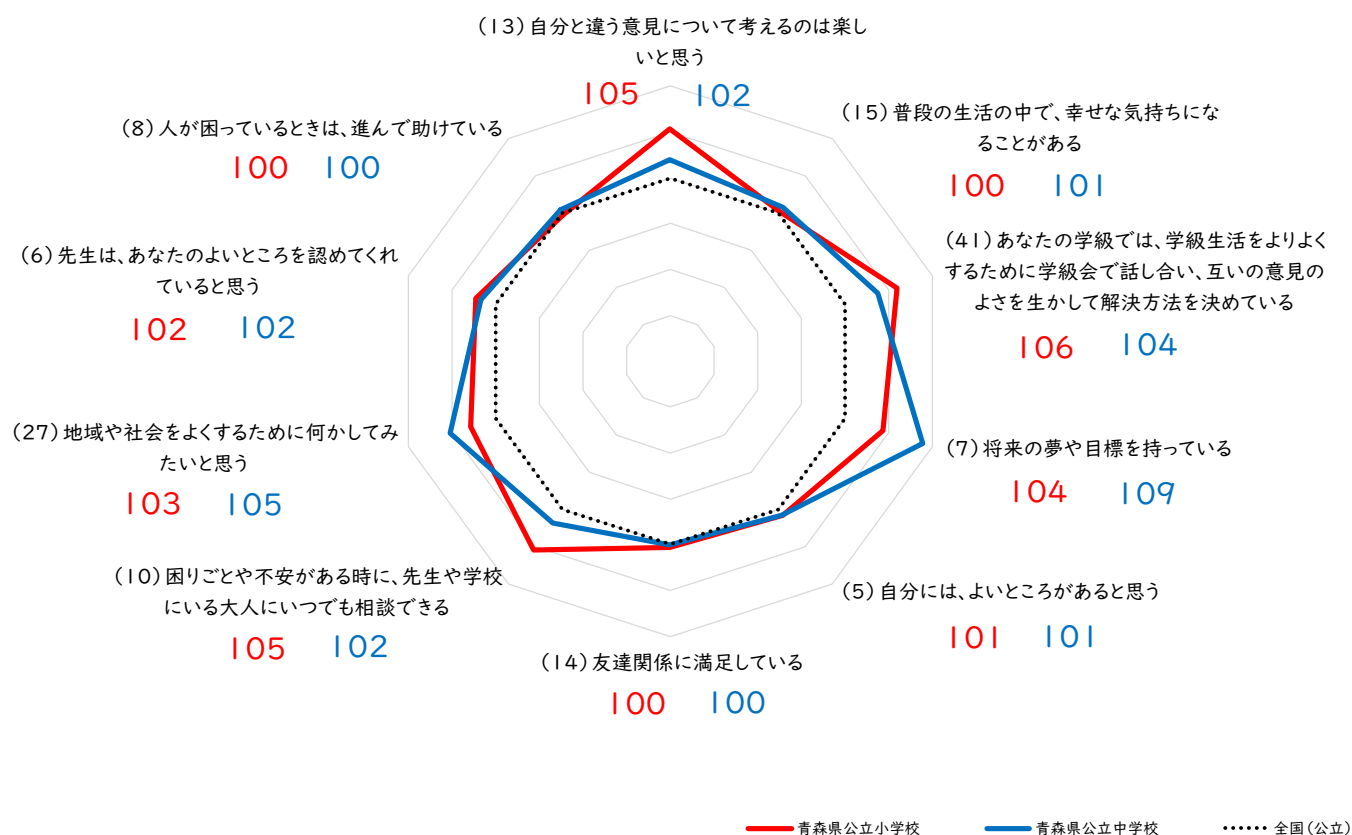


- ・(81)「児童生徒が自分で学ぶ内容や学び方を決めるなど、家庭学習について工夫して取り組めるような活動を行った」について、小・中学校ともに肯定的な回答が全国を上回っている。
- ・(83) (84) 全国学力・学習状況調査の結果の活用について、小・中学校ともに肯定的な回答が全国を下回っている。

○全国学力・学習状況調査の結果分析の活用が、各校における教育活動上の課題解決の一助になると考えられるため、各校の実情に応じた取組が期待される。

【参考資料】

こどものウェルビーイングの実現に関連すると考えられる項目（児童生徒質問調査から）



(注) 『令和5年度全国学力・学習状況調査ウェルビーイングに関する分析報告書—学校という「場」のウェルビーイングの醸成に向けて—』（京都大学 内田由紀子氏・奥田麻依子氏）を参考にし、青森県教育委員会が独自に作成したチャート

グラフは児童生徒質問調査から、こどものウェルビーイングの実現に関連すると考えられる項目を取り出したものである。なお、このグラフはそれぞれの項目での肯定的な回答の割合を集計したものである。
・小・中学校ともに、全国と同じ又は上回っている。

○各校においては自校の状況を丁寧に捉え、こどもたちがウェルビーイングを実感できるように、学校・地域・保護者が協力してどのようなことに取り組めるのかなどを考察するきっかけとしてほしい。